

< 資 料 目 次 >

審査意見 1 (1)、(2)、2 資料

(資料 13 東北農林専門職大学農業経営学科の養成する人材像、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーの対応関係)

審査意見 3 (1) 資料

(設置等の趣旨資料 24 別表 1~12 臨地実務実習実施計画書モデル例)
(シラバスモデル例)

審査意見 1 1 (2)、(3) 資料

(【資料 6】近隣大学の農学系学部及び農林業系専門職大学の志願状況)

(【資料 7】東北農林専門職大学(仮称)設置に関するアンケート調査(高校生)報告書
(令和 5 年 3 月))

審査意見 1 1 (2) 資料

(【資料 9】高校卒業後の進学状況)

(【資料 10】大学(学部)への入学志願者及び入学者の状況)

(【資料 11】18 歳人口の推移)

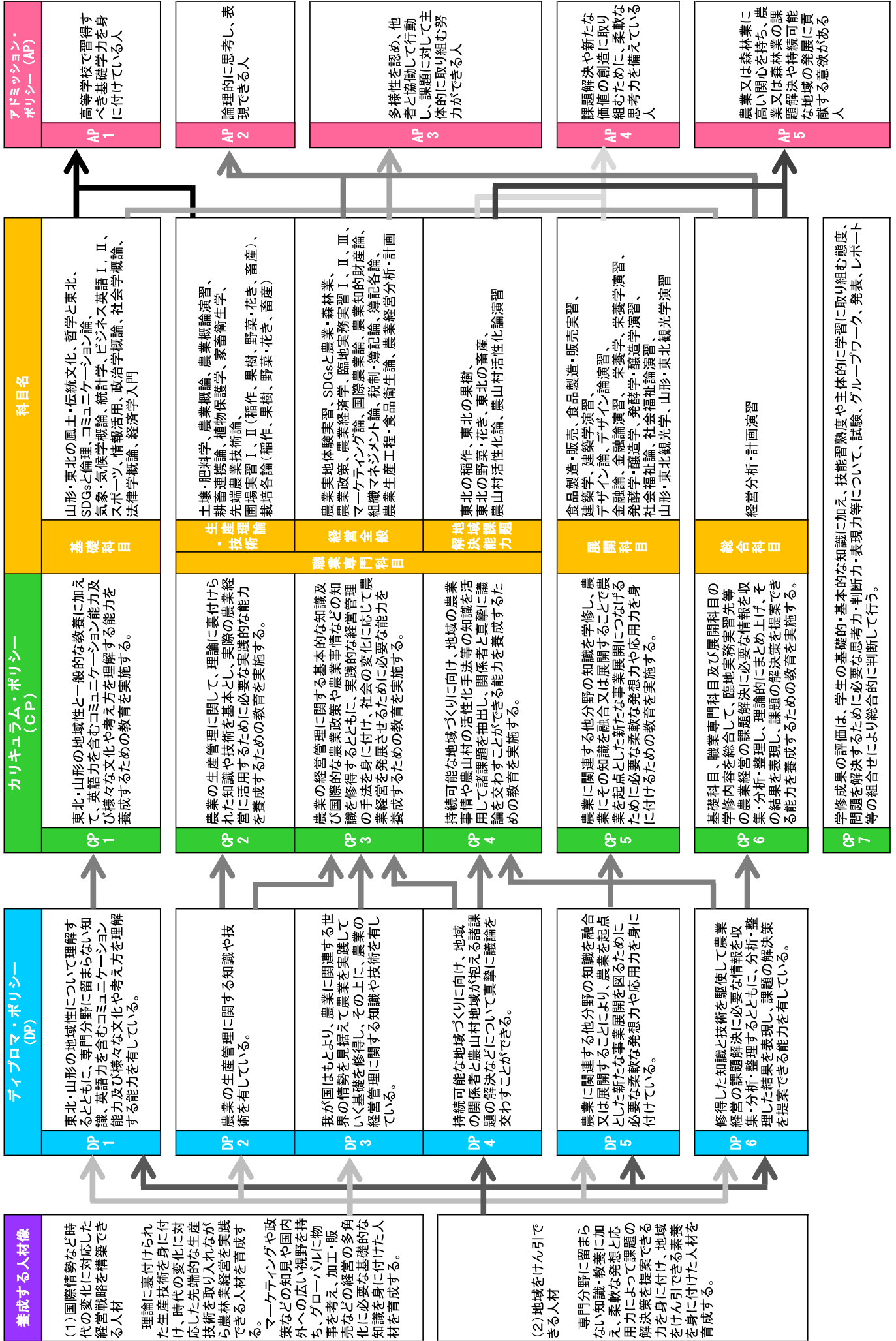
(【資料 13】山形県における大学進学状況)

(【資料 14】東北地区の国公立大学の農学系学部の定員充足状況)

審査意見 1 1 (3) 資料

(【資料 15】東北地区における農学系学部の設置状況)

(【資料 16】大卒者の産業別就職者数)



（様式第 9 号－1）

臨地実務実習実施計画書

（実習名：臨地実務実習 I）

実習先名	〇〇〇農場		
実習指導者名	〇〇 〇〇		
学生氏名	専門 太郎		
実習 期間	時期	実習期間	1日当たりの 実習時間
	4月期	4月21日（月）～4月25日（金）	8時間
	5月期	5月20日（火）～5月27日（火）	8時間
	6～7月期	7月9日（月）～7月11日（金）	8時間
	9月期	9月16日（火）～9月25日（木）	8時間
	10月期	10月20日（月）～10月24日（金）	8時間
	11～12月期	12月1日（月）～12月3日（水）	8時間

【4月期実習計画】

作物名	実習内容	主たる実習場所
水稲 （生産管理）	育苗用播種、乾田直播、堆肥施用、肥料散布	圃場

【5月期実習計画】

作物名	実習内容	主たる実習場所
水稲 （生産管理）	田植え	圃場

【6～7月期実習計画】

作物名	実習内容	主たる実習場所
水稲 （生産管理）	圃場管理、畦畔草刈り	圃場
大豆 （生産管理）	圃場管理（除草、中耕培土等）	圃場

【9月期実習計画】

作物名	実習内容	主たる実習場所
水稲 （生産管理）	稲刈り、乾燥調製	圃場、作業場

【10 月期実習計画】

作物名	実習内容	主たる実習場所
大豆 (生産管理)	収穫	圃場、作業場

【11～12 月期実習計画】

作物名	実習内容	主たる実習場所
大豆 (生産管理)	選別、調整、出荷	作業場
水稲、大豆 (生産管理)	農機具整備	作業場

（様式第 9 号－1）

臨地実務実習実施計画書

（実習名：臨地実務実習Ⅱ）

実習先名	〇〇〇農場		
実習指導者名	〇〇 〇〇		
学生氏名	専門 太郎		
実習 期間	時期	実習期間	1日当たりの 実習時間
	4月期	4月21日（火）～4月22日（水）	8時間
	5月期	5月19日（火）～5月21日（木）	8時間
	6～7月期	6月30日（火）～7月10日（金）	8時間
	9月期	9月14日（月）～9月25日（金）	8時間
	10月期	10月20日（火）～10月27日（火）	8時間
	11～12月期	12月1日（火）～12月2日（水）	8時間

【4月期実習計画】

作物名	実習内容	主たる実習場所
水稲、大豆 （経営管理）	作付計画作成、受注管理	事務所
水稲 （生産管理）	育苗用播種、乾田直播、堆肥施用、肥料散布	圃場

【5月期実習計画】

作物名	実習内容	主たる実習場所
水稲、大豆 （経営管理）	作業進捗管理、顧客管理	事務所等
水稲 （生産管理）	水稲：田植え	圃場

【6～7月期実習計画】

作物名	実習内容	主たる実習場所
水稲、大豆 （経営管理）	GAP 審査準備、対応	事務所、作業場
水稲、大豆 （生産管理）	水稲：畦畔草刈り 大豆：圃場管理（除草、中耕培土等）	圃場

【9月期実習計画】

作物名	実習内容	主たる実習場所
水稲 (経営管理)	刈取り計画作成、進捗管理	事務所
水稲 (生産管理)	収穫、乾燥調製	圃場

【10月期実習計画】

作物名	実習内容	主たる実習場所
大豆 (経営管理)	作業進捗管理（刈取り計画作成）	事務所
大豆 (生産管理)	収穫	圃場

【11～12月期実習計画】

作物名	実習内容	主たる実習場所
水稲、大豆 (経営管理)	生産費計算、収支計算、決算資料作成	事務所等
水稲、大豆 (生産管理)	農作業用機械メンテナンス等	作業場

（様式第 9 号 - 1）

臨地実務実習実施計画書

（実習名：臨地実務実習Ⅲ）

卒業研究テーマ「水稻大規模経営体におけるスマート農機の導入効果と効率的な圃場管理方法の提案」

実習先名	〇〇〇農場		
実習指導者名	〇〇 〇〇		
学生氏名	専門 太郎		
実習 期間	時期	実習期間	1日当たりの 実習時間
	4月期	4月20日（火）～4月22日（木）	8時間
	5月期	5月24日（月）～5月28日（金）	8時間
	6～7月期	7月2日（金）～7月9日（金）	8時間
	9月期	9月16日（木）～9月24日（金）	8時間
	10月期	10月25日（月）～10月29日（金）	8時間
	11～12月期	12月6日（月）～12月10日（金）	8時間

【4月期実習計画】

作物名	実習内容	主たる実習場所
水稻、大豆 （経営総合）	スマート農機利用計画作成 圃場情報システム操作方法	事務所
水稻、大豆 （経営管理）	作付計画作成、受注管理	事務所
水稻 （生産管理）	育苗用播種、乾田直播、堆肥施用、肥料 散布	圃場

【5月期実習計画】

作物名	実習内容	主たる実習場所
水稻、大豆 （経営総合）	作業時間等調査	圃場、事務所
水稻、大豆 （経営管理）	栽培進捗管理、受注管理	事務所等
水稻 （生産管理）	田植え	圃場

【6～7月期実習計画】

作物名	実習内容	主たる実習場所
水稲、大豆 (経営総合)	作業時間等調査、規模拡大シミュレーション	圃場、事務所
水稲、大豆 (経営管理)	GAP 審査準備、対応	事務所、作業場
水稲、大豆 (生産管理)	水稲：畦畔草刈り 大豆：圃場管理（除草、中耕培土等）	圃場

【9月期実習計画】

作物名	実習内容	主たる実習場所
水稲、大豆 (経営総合)	作業時間等調査、規模拡大シミュレーション	圃場、事務所
水稲 (経営管理)	刈取り計画作成、進捗管理	事務所
水稲 (生産管理)	収穫、乾燥調製	圃場

【10月期実習計画】

作物名	実習内容	主たる実習場所
大豆 (経営総合)	作業時間等調査	事務所
大豆 (経営管理)	刈取り計画作成、進捗管理	事務所
大豆 (生産管理)	収穫	圃場

【11～12月期実習計画】

作物名	実習内容	主たる実習場所
水稲、大豆 (経営総合)	スマート農機導入効果試算（作業時間、生産費、収支）	事務所
水稲、大豆 (経営管理)	生産費計算、収支計算、決算資料作成	事務所等
水稲、大豆 (生産管理)	農作業用機械メンテナンス等	作業場

（様式第 9 号－1）

臨地実務実習実施計画書

（実習名：臨地実務実習Ⅰ）

実習先名	〇〇〇〇ファーム		
実習指導者名	〇〇 〇〇		
学生氏名	専門 太郎		
実習 期間	時期	実習期間	1日当たりの 実習時間
	4月期	4月21日（月）～4月25日（金）	8時間
	5月期	5月19日（月）～5月20日（金）	8時間
	6～7月期	6月30日（月）～7月8日（火）	8時間
	9月期	9月16日（火）～9月25日（木）	8時間
	10月期	10月20日（月）～10月27日（月）	8時間
	11～12月期	12月1日（月）～12月2日（火）	8時間

【4月期実習計画】

作物名	実習内容	主たる実習場所
オウトウ （生産管理）	雨よけハウス栽培：人工受粉、防霜 加温ハウス栽培：着色管理	雨よけハウス、加温ハ ウス

【5月期実習計画】

作物名	実習内容	主たる実習場所
オウトウ （生産管理）	雨よけハウス栽培：雨よけビニール被 覆、摘果 加温ハウス栽培：収穫	雨よけハウス、加温ハ ウス、作業場

【6～7月期実習計画】

作物名	実習内容	主たる実習場所
オウトウ （生産管理）	雨よけハウス栽培：収穫、選別、出荷	雨よけハウス、作業場

【9月期実習計画】

作物名	実習内容	主たる実習場所
ブドウ (生産管理)	収穫、出荷	圃場、作業場
モモ (生産管理)	収穫、出荷	圃場、作業場
リンゴ (生産管理)	着色管理	圃場
西洋ナシ (生産管理)	収穫（早生品種）	圃場、作業場

【10月期実習計画】

作物名	実習内容	主たる実習場所
リンゴ (生産管理)	収穫、出荷	圃場、作業場
西洋ナシ (生産管理)	収穫（ラ・フランス）、出荷	圃場、作業場

【11～12月期実習計画】

作物名	実習内容	主たる実習場所
リンゴ (生産管理)	出荷	作業場
西洋ナシ (生産管理)	出荷	作業場
全般 (生産管理)	雪対策（支柱設置等、大枝の剪定）	圃場

（様式第 9 号 - 1）

臨地実務実習実施計画書

（実習名：臨地実務実習Ⅱ）

実習先名	〇〇〇〇ファーム		
実習指導者名	〇〇 〇〇		
学生氏名	専門 太郎		
実習 期間	時期	実習期間	1日当たりの 実習時間
	4月期	4月21日（火）～4月22日（水）	8時間
	5月期	5月18日（月）～5月20日（水）	8時間
	6～7月期	6月30日（火）～7月10日（金）	8時間
	9月期	9月14日（月）～9月25日（金）	8時間
	10月期	10月20日（火）～10月27日（火）	8時間
	11～12月期	12月1日（火）～12月2日（水）	8時間

【4月期実習計画】

作物名	実習内容	主たる実習場所
全般 （経営管理）	受注管理、ダイレクトメール発送	事務所
オウトウ （生産管理）	オウトウ雨よけハウス栽培：人工受粉、防霜 オウトウ加温ハウス栽培：着色管理	雨よけハウス、加温ハウス

【5月期実習計画】

作物名	実習内容	主たる実習場所
全般 （経営管理）	顧客管理、取引業者等との交渉・打合せ 同行	事務所等
オウトウ （生産管理）	オウトウ雨よけハウス栽培：雨よけビニール被覆、摘果	雨よけハウス、作業場

【6～7月期実習計画】

作物名	実習内容	主たる実習場所
全般 （経営管理）	作業進捗管理（摘蕾・収穫計画作成）、対面販売、接客	併設店舗及びカフェ
オウトウ （生産管理）	オウトウ雨よけ栽培：収穫、選別、出荷	雨よけハウス、作業場

【9月期実習計画】

作物名	実習内容	主たる実習場所
全般 (経営管理)	対面販売、接客	併設店舗及びカフェ
ブドウ、モモ、西洋ナシ、リンゴ (生産管理)	ブドウ、モモ、西洋ナシ：収穫、出荷 リンゴ：着色管理	圃場

【10月期実習計画】

作物名	実習内容	主たる実習場所
全般 (経営管理)	受注・顧客管理、パンフレット送付	事務所
ブドウ、モモ、西洋ナシ、リンゴ (生産管理)	ブドウ、モモ、西洋ナシ：収穫、出荷 リンゴ：着色管理	圃場

【11～12月期実習計画】

作物名	実習内容	主たる実習場所
全般 (経営管理)	顧客管理、生産費計算、収支計算、決算 資料作成	事務所等
全般 (生産管理)	農作業用機械メンテナンス等	作業場

（様式第 9 号－ 1 ）

臨地実務実習実施計画書

（実習名：臨地実務実習Ⅲ）

卒業研究テーマ「ユニバーサルデザイン（UD）による観光果樹園を主体とした農業の新規事業展開について」

実習先名	〇〇〇〇ファーム		
実習指導者名	〇〇 〇〇		
学生氏名	専門 太郎		
実習 期間	時期	実習期間	1日当たりの 実習時間
	4月期	4月19日（月）～4月30日（金）	8時間
	5月期	5月18日（火）～5月19日（水）	8時間
	6～7月期	6月29日（火）～7月1日（木）	8時間
	9月期	9月13日（月）～9月22日（水）	8時間
	10月期	10月19日（火）～10月26日（火）	8時間
	11～12月期	12月2日（木）～12月3日（金）	8時間

【4月期実習計画】

作物名	実習内容	主たる実習場所
全般 （経営総合）	UD計画作成、顧客受入準備	事務所
全般 （経営管理）	受注管理、ダイレクトメール発送	事務所
オウトウ （生産管理）	オウトウ雨よけハウス栽培：人工受粉、防霜 オウトウ加温ハウス栽培：着色管理	雨よけハウス、加温ハウス

【5月期実習計画】

作物名	実習内容	主たる実習場所
全般 （経営総合）	顧客受入準備、UD対応	事務所
全般 （経営管理）	受注管理、取引業者等との交渉・打合せ 同行	事務所等
オウトウ （生産管理）	オウトウ雨よけハウス栽培：雨よけビニール被覆、摘果	雨よけハウス、作業場

【6～7月期実習計画】

作物名	実習内容	主たる実習場所
全般 (経営総合)	アンケート調査	併設店舗及びカフェ、 事務所
全般 (経営管理)	対面販売、接客	併設店舗及びカフェ
オウトウ (生産管理)	オウトウ雨よけ栽培：収穫、選別、出荷	雨よけハウス、作業場

【9月期実習計画】

作物名	実習内容	主たる実習場所
全般 (経営総合)	アンケート調査	併設店舗及びカフェ、 事務所
全般 (経営管理)	対面販売、接客	併設店舗及びカフェ
ブドウ、モモ、西 洋ナシ、リンゴ (生産管理)	ブドウ、モモ、西洋ナシ：収穫、出荷 リンゴ：着色管理	圃場

【10月期実習計画】

作物名	実習内容	主たる実習場所
全般 (経営総合)	アンケート調査	併設店舗及びカフェ、 事務所
全般 (経営管理)	受注・顧客管理、パンフレット送付	事務所
ブドウ、モモ、西 洋ナシ、リンゴ (生産管理)	ブドウ、モモ、西洋ナシ：収穫、出荷 リンゴ：着色管理	圃場

【11～12月期実習計画】

作物名	実習内容	主たる実習場所
全般 (経営総合)	アンケートの取りまとめ、改善プラン作 成	併設店舗及びカフェ、 事務所
全般 (経営管理)	受注・顧客管理、資金管理、取引業者等 との交渉・打合せ同行	事務所等
全般 (生産管理)	農作業用機械メンテナンス等	作業場

（様式第 9 号－1）

令和 7 年度 臨地実務実習実施計画書

（実習名：臨地実務実習 I ）

実習先名	〇〇〇〇園芸		
実習指導者名	〇〇 〇〇		
学生氏名	専門 花太郎		
実習 期間	時期	実習期間	1 日当たりの 実習時間
	4 月期	4 月 21 日（月）～4 月 25 日（金）	8 時間
	5 月期	5 月 19 日（月）～5 月 23 日（金）	8 時間
	6～7 月期	7 月 7 日（月）～7 月 11 日（金）	8 時間
	9 月期	9 月 16 日（火）～9 月 22 日（月）	8 時間
	10 月期	10 月 20 日（月）～10 月 28 日（火）	8 時間
	11～12 月期	12 月 1 日（月）～12 月 2 日（火）	8 時間

【4 月期実習計画】

作物名	実習内容	主たる実習場所
サンパチェンス （生産管理）	土詰め、挿し穂、灌水、鉢上げ、出荷	鉢物栽培ハウス

【5 月期実習計画】

作物名	実習内容	主たる実習場所
ミニシクラメン （生産管理）	鉢上げ、灌水	鉢物栽培ハウス

【6～7 月期実習計画】

作物名	実習内容	主たる実習場所
ミニシクラメン （生産管理）	灌水、鉢ずらし	鉢物栽培ハウス

【9 月期実習計画】

作物名	実習内容	主たる実習場所
ミニシクラメン （生産管理）	葉摘み、株整理、灌水	鉢物栽培ハウス

【10 月期実習計画】

作物名	実習内容	主たる実習場所
ミニシクラメン (生産管理)	株整理、出荷	鉢物栽培ハウス

【11～12 月期実習計画】

作物名	実習内容	主たる実習場所
サンパチェンス (生産管理)	育苗用土準備、苗管理	鉢物栽培ハウス

（様式第 9 号－1）

令和 8 年度 臨地実務実習実施計画書

（実習名：臨地実務実習Ⅱ）

実習先名	〇〇〇〇園芸		
実習指導者名	〇〇 〇〇		
学生氏名	専門 花太郎		
実習 期間	時期	実習期間	1日当たりの 実習時間
	4月期	4月20日（月）～4月24日（金）	8時間
	5月期	5月18日（月）～5月22日（金）	8時間
	6～7月期	7月6日（月）～7月10日（金）	8時間
	9月期	9月14日（月）～9月18日（金）	8時間
	10月期	10月19日（月）～10月27日（火）	8時間
	11～12月期	12月7日（月）～12月8日（火）	8時間

【4月期実習計画】

作物名	実習内容	主たる実習場所
ミニシクラメン （経営管理）	作付計画・施設の稼働シミュレーション 作成	事務所
サンパチェンス （生産管理）	土詰め、挿し穂、灌水、鉢上げ	鉢物栽培ハウス

【5月期実習計画】

作物名	実習内容	主たる実習場所
ミニシクラメン （経営管理）	受注管理	事務所
サンパチェンス （生産管理）	株管理、出荷	鉢物栽培ハウス

【6～7月期実習計画】

作物名	実習内容	主たる実習場所
全般（経営管理）	作業進捗管理（作業計画作成、労務管理 計画作成等）	事務所
ミニシクラメン （生産管理）	灌水、鉢ずらし	鉢物栽培ハウス

【9月期実習計画】

作物名	実習内容	主たる実習場所
全般（経営管理）	次作経費、販売計画立案	事務所
ミニシクラメン （生産管理）	葉摘み、株整理、灌水	鉢物栽培ハウス

【10月期実習計画】

作物名	実習内容	主たる実習場所
サンパチェンス （経営管理）	栽培計画・施設の稼働シミュレーション 作成	事務所
ミニシクラメン （生産管理）	株整理、出荷	鉢物栽培ハウス

【11～12月期実習計画】

作物名	実習内容	主たる実習場所
サンパチェンス （経営管理）	顧客管理、生産費計算、収支計算、決算 資料作成	事務所
サンパチェンス （生産管理）	育苗用土準備、苗管理	鉢物栽培ハウス

（様式第 9 号－ 1 ）

令和 9 年度 臨地実務実習実施計画書

（実習名：臨地実務実習Ⅲ）

卒業研究テーマ「B to B」事業者による「B to C」実践による販路拡大とPR効果の
検証

実習先名	〇〇〇〇園芸		
実習指導者名	〇〇 〇〇		
学生氏名	専門 花太郎		
実習 期間	時期	実習期間	1日当たりの 実習時間
	4月期	4月19日（月）～4月23日（金）	8時間
	5月期	5月17日（月）～5月21日（金）	8時間
	6～7月期	7月5日（月）～7月9日（金）	8時間
	9月期	9月13日（月）～9月17日（金）	8時間
	10月期	10月18日（月）～10月26日（火）	8時間
	11～12月期	12月1日（水）～12月2日（木）	8時間

【4月期実習計画】

作物名	実習内容	主たる実習場所
直販（経営総合）	販売ブース準備、アンケート準備	資材保管庫、事務所
ミニシクラメン （経営管理）	栽培計画・施設の稼働シミュレーション 作成	事務所
サンパチェンス （生産管理）	土詰め、挿し穂、灌水、鉢上げ	鉢物栽培ハウス

【5月期実習計画】

作物名	実習内容	主たる実習場所
直販（経営総合）	店舗販売（B to Cの実践）	資材保管庫
ミニシクラメン （経営管理）	労務管理計画作成	事務所
サンパチェンス （生産管理）	株管理、出荷	鉢物栽培ハウス

【6～7月期実習計画】

作物名	実習内容	主たる実習場所
直販（経営総合）	店舗販売（B to Cの実践）	資材保管庫
全般（経営管理）	次作作付計画立案	事務所
ミニシクラメン （生産管理）	灌水、鉢ずらし	鉢物栽培ハウス

【9月期実習計画】

作物名	実習内容	主たる実習場所
直販（経営総合）	アンケート集計	事務所
全般（経営管理）	次作経費、販売計画立案	事務所
ミニシクラメン （生産管理）	葉摘み、株整理、灌水	鉢物栽培ハウス

【10月期実習計画】

作物名	実習内容	主たる実習場所
直販（経営総合）	次作販売戦略構築	事務所
サンパチェンス （経営管理）	栽培計画・施設の稼働シミュレーション 作成	事務所
ミニシクラメン （生産管理）	株整理、出荷	鉢物栽培ハウス

【11～12月期実習計画】

作物名	実習内容	主たる実習場所
直販（経営総合）	次作販売戦略構築	事務所
サンパチェンス （経営管理）	労務管理計画作成	事務所
サンパチェンス （生産管理）	育苗用土準備、苗管理	鉢物栽培ハウス

（様式第 9 号－1）

令和 7 年度 臨地実務実習実施計画書

（実習名：臨地実務実習 I ）

実習先名	〇〇〇〇畜産		
実習指導者名	〇〇 〇〇		
学生氏名	畜産 太郎		
実習 期間	時期	実習期間	1 日当たりの 実習時間
	4 月期	4 月 21 日（月）～4 月 25 日（金）	8 時間
	5 月期	5 月 19 日（月）～5 月 23 日（金）	8 時間
	6～7 月期	7 月 7 日（月）～7 月 11 日（金）	8 時間
	9 月期	9 月 16 日（火）～9 月 19 日（金）	8 時間
	10 月期	10 月 20 日（月）～10 月 24 日（金）	8 時間
	11～12 月期	12 月 1 日（月）～12 月 5 日（金）	8 時間

【4 月期実習計画】

畜種	実習内容	主たる実習場所
繁殖牛（生産管理）	給餌、牛床清掃、糞尿処理、母牛管理	繁殖牛舎、堆肥舎、敷料保管庫

【5 月期実習計画】

作物名	実習内容	主たる実習場所
繁殖牛（生産管理）	給餌、牛床清掃、糞尿処理、種つけ	繁殖牛舎、堆肥舎、敷料保管庫

【6～7 月期実習計画】

作物名	実習内容	主たる実習場所
繁殖牛（生産管理）	給餌、牛床清掃、糞尿処理、子牛管理	繁殖牛舎、堆肥舎、敷料保管庫

【9 月期実習計画】

作物名	実習内容	主たる実習場所
肥育牛（生産管理）	飼料作物管理、給餌、牛床清掃、糞尿処理	肥育牛舎、堆肥舎、敷料保管庫

【10 月期実習計画】

作物名	実習内容	主たる実習場所
肥育牛（生産管理）	配合飼料調整、給餌、牛床清掃、糞尿処理、ホールクロップサイレージ稲収穫・ラッピング	肥育牛舎、堆肥舎、敷料保管庫

【11～12 月期実習計画】

作物名	実習内容	主たる実習場所
肥育牛（生産管理）	給餌、牛床清掃、糞尿処理、血液検査、ホールクロップサイレージ稲収穫・ラッピング	肥育牛舎、堆肥舎、敷料保管庫

（様式第 9 号 - 1）

令和 8 年度 臨地実務実習実施計画書

（実習名：臨地実務実習Ⅱ）

実習先名	〇〇〇〇畜産		
実習指導者名	〇〇 〇〇		
学生氏名	畜産 太郎		
実習 期間	時期	実習期間	1日当たりの 実習時間
	4月期	4月20日（月）～4月24日（金）	8時間
	5月期	5月18日（月）～5月22日（金）	8時間
	6～7月期	7月6日（月）～7月10日（金）	8時間
	9月期	9月15日（火）～9月18日（金）	8時間
	10月期	10月19日（月）～10月23日（金）	8時間
	11～12月期	12月7日（月）～12月11日（金）	8時間

【4月期実習計画】

作物名	実習内容	主たる実習場所
繁殖牛（経営管理）	生産費計算、収支計算、人員配置と労務管理	繁殖牛舎、事務所
繁殖牛（生産管理）	給餌、牛床清掃、糞尿処理、母牛管理	繁殖牛舎、堆肥舎、敷料保管庫

【5月期実習計画】

作物名	実習内容	主たる実習場所
繁殖牛（経営管理）	生産費計算、収支計算、人員配置と労務管理	繁殖牛舎、事務所
繁殖牛（生産管理）	給餌、牛床清掃、糞尿処理、種つけ	繁殖牛舎、堆肥舎、敷料保管庫

【6～7月期実習計画】

作物名	実習内容	主たる実習場所
繁殖牛（経営管理）	生産費計算、収支計算、人員配置と労務管理	繁殖牛舎、事務所
繁殖牛（生産管理）	給餌、牛床清掃、糞尿処理、子牛管理	繁殖牛舎、堆肥舎、敷料保管庫

【9月期実習計画】

作物名	実習内容	主たる実習場所
肥育牛（経営管理）	飼料作物のコスト計算、生産原価の計算、決算資料作成	肥育牛舎、事務所
肥育牛（生産管理）	飼料作物管理、給餌、牛床清掃、糞尿処理	肥育牛舎、堆肥舎、敷料保管庫

【10月期実習計画】

作物名	実習内容	主たる実習場所
肥育牛（経営管理）	配合飼料のコスト計算、生産原価の計算、決算資料作成	肥育牛舎、事務所
肥育牛（生産管理）	配合飼料調整、給餌、牛床清掃、糞尿処理、ホールクroppサイレーヅ稲収穫・ラッピング	肥育牛舎、堆肥舎、敷料保管庫

【11～12月期実習計画】

作物名	実習内容	主たる実習場所
肥育牛（経営管理）	肉質と販売単価の試算、生産原価の計算、決算資料作成	肥育牛舎、事務所
肥育牛（生産管理）	給餌、牛床清掃、糞尿処理、血液検査、ホールクroppサイレーヅ稲収穫・ラッピング	肥育牛舎、堆肥舎、敷料保管庫

（様式第 9 号－1）

令和 9 年度 臨地実務実習実施計画書

（実習名：臨地実務実習Ⅲ）

卒業研究テーマ「母牛を中心とした繁殖牛への自給ホールクロップサイレージの給餌による飼料の国産化と健全育成」

実習先名	〇〇〇〇畜産		
実習指導者名	〇〇 〇〇		
学生氏名	畜産 太郎		
実習 期間	時期	実習期間	1日当たりの 実習時間
	4月期	4月19日（月）～4月23日（金）	8時間
	5月期	5月17日（月）～5月21日（金）	8時間
	6～7月期	7月5日（月）～7月9日（金）	8時間
	9月期	9月14日（火）～9月17日（金）	8時間
	10月期	10月18日（月）～10月22日（金）	8時間
	11～12月期	12月6日（月）～12月10日（金）	8時間

【4月期実習計画】

作物名	実習内容	主たる実習場所
繁殖牛（経営総合）	国産飼料の作付計画立案、ホールクロップサイレージの給餌、母牛管理、種付け	繁殖牛舎、事務所
繁殖牛（経営管理）	生産原価の計算、損益分岐点の計算、人員配置と労務管理	繁殖牛舎、事務所
繁殖牛（生産管理）	給餌、牛床清掃、糞尿処理、母牛管理、種付け、子牛管理	繁殖牛舎、堆肥舎、敷料保管庫

【5月期実習計画】

作物名	実習内容	主たる実習場所
繁殖牛（経営総合）	ホールクロップサイレージの給餌、母牛管理、種付け、受胎率調査	繁殖牛舎、事務所
繁殖牛（経営管理）	生産原価の計算、損益分岐点の計算、人員配置と労務管理	繁殖牛舎、事務所
繁殖牛（生産管理）	給餌、牛床清掃、糞尿処理、母牛管理、種付け、子牛管理	繁殖牛舎、堆肥舎、敷料保管庫

【6～7月期実習計画】

作物名	実習内容	主たる実習場所
繁殖牛（経営総合）	ホールクroppサイレージの給餌、母牛管理、種付け、受胎率調査	繁殖牛舎、事務所
繁殖牛（経営管理）	生産原価の計算、損益分岐点の計算、人員配置と労務管理	繁殖牛舎、事務所
繁殖牛（生産管理）	給餌、牛床清掃、糞尿処理、母牛管理、種付け、子牛管理	繁殖牛舎、堆肥舎、敷料保管庫

【9月期実習計画】

作物名	実習内容	主たる実習場所
繁殖牛（経営総合）	子牛管理・発育調査、大規模ホールクroppサイレージ生産用機械の比較検討	繁殖牛舎、事務所
繁殖牛（経営管理）	飼料作物のコスト計算、生産原価の計算、損益分岐点の計算	繁殖牛舎、事務所
繁殖牛（生産管理）	給餌、牛床清掃、糞尿処理、母牛管理、種付け、子牛管理	繁殖牛舎、堆肥舎、敷料保管庫

【10月期実習計画】

作物名	実習内容	主たる実習場所
繁殖牛（経営総合）	子牛管理・発育調査、大規模ホールクroppサイレージ生産時の生産費用試算と輸入飼料との比較検討	繁殖牛舎、事務所
繁殖牛（経営管理）	飼料作物のコスト計算、生産原価の計算、損益分岐点の計算	繁殖牛舎、事務所
繁殖牛（生産管理）	給餌、牛床清掃、糞尿処理、母牛管理、種付け、子牛管理、ホールクroppサイレージ稲収穫・ラッピング	繁殖牛舎、堆肥舎、敷料保管庫

【11～12月期実習計画】

作物名	実習内容	主たる実習場所
繁殖牛（経営総合）	ホールクroppサイレージ利用による経営試算と戦略構築	繁殖牛舎、事務所
繁殖牛（経営管理）	飼料作物のコスト計算、生産原価の計算、損益分岐点の計算、税務処理	繁殖牛舎、事務所
繁殖牛（生産管理）	給餌、牛床清掃、糞尿処理、母牛管理、種付け、子牛管理、ホールクroppサイレージ稲収穫・ラッピング	繁殖牛舎、堆肥舎、敷料保管庫

授業名	臨地実務実習Ⅰ(生産管理等)		単位数	8単位	授業の方法	実習
	On-site practical trainingⅠ(Production management)		履修年次	2年 通年		
受講対象	農林業経営学部 農業経営学科		科目区分	必修		
授業コード	A212	教員名	○小沢 互、農業経営学科の全専任教員			
授業時間	前期15日 [4月、5月、6月下旬～7月上旬の各2週間の実習ウィーク(計30日)の中から任意の計15日を選択] 後期15日 [9月、10月、12月の各2週間の実習ウィーク(計30日)の中から任意の計15日を選択]		教室	臨地実務実習地		
オフィスアワー	随時受付ける。ただし、事前にメールで連絡すること。					
メールアドレス	○○@pref.yamagata.jp					
授業概要	自らが将来携わりたい農業経営形態について深く学び、経営ビジョンを描くために、作目や事業内容に応じマッチングした優れた農業経営体の元で実習を受けることは非常に有意義な事である。本科目では優れた農業経営体での実習を通じて、農業経営体の持つ生産管理に関する知識や技術を主に学ぶ。					
授業目的・目標	優れた農業経営体(法人、個人等)での実習を通じて、農業経営体の持つ優れた生産管理に関する知識や技術を理解する。 学んだことをレポートにまとめ、発表することができる。					
準備学習等	作業内容の確認・予習を必ず行い、復習内容はその日のうちに日誌に記録すること。					
授業計画・内容	回数	内容				
	1、2	ガイダンス				
	3～22	【4月期】水稲播種(播種、乾田直播)、圃場準備(堆肥施用、肥料散布)				
	23～46	【5月期】田植え				
	47～58	【6～7月期】ダイズ播種、水田圃場管理(草刈り、水管理)				
	59～86	【9月期】稲刈り、乾燥調製				
	87～106	【10月期】ダイズ収穫				
	107～118	【11～12月期】ダイズ調整、農機具整備				
	119、120	報告会				
キーワード	臨地実務実習、生産管理					
教科書・参考書	最初の実習で資料を配布するほか、適宜、必要な資料を配布する。					
評価方法・評価基準	報告書(40%)、自己点検表(10%)、臨地実務実習指導者による評価(25%)、報告会(25%)					
関連科目	圃場実習Ⅰ、圃場実習Ⅱ「稲作」「果樹」「野菜・花き」「畜産」、農業実地体験実習、臨地実務実習Ⅱ(経営管理等)、臨地実務実習Ⅲ(経営総合)					
履修要件	「圃場実習Ⅰ」等を通じて、基礎的な技術を身に付けていること。					
備考	「授業計画・内容」については、稲作のモデルとして示したもので、実際には「臨地実務実習等実施要領」に基づき、履修前年度の11月に、担当教員が学生の希望に応じ、実習先をマッチング・決定し、実習先・学生・担当教員が協議した上で、3回から118回までの具体的な実習計画を決定する。 長期の宿泊を伴う実習となるため、規則正しい生活に心がけ、体調管理に留意すること。 受入先の指導・指示に従って、作業を行うこと。					

授業名	臨地実務実習Ⅰ(生産管理等)		単位数	8単位	授業の方法	実習
	On-site practical trainingⅠ(Production management)		履修年次	2年 通年		
受講対象	農林業経営学部 農業経営学科		科目区分	必修		
授業コード	A212	教員名	○小沢 互、農業経営学科の全専任教員			
授業時間	前期15日 [4月、5月、6月下旬～7月上旬の各2週間の実習ウィーク(計30日)の中から任意の計15日を選択] 後期15日 [9月、10月、12月の各2週間の実習ウィーク(計30日)の中から任意の計15日を選択]		教室	臨地実務実習地		
オフィスアワー	随時受付ける。ただし、事前にメールで連絡すること。					
メールアドレス	○○@pref.yamagata.jp					
授業概要	自らが将来携わりたい農業経営形態について深く学び、経営ビジョンを描くために、作目や事業内容に応じマッチングした優れた農業経営体の元で実習を受けることは非常に有意義な事である。本科目では優れた農業経営体での実習を通じて、農業経営体の持つ生産管理に関する知識や技術を主に学ぶ。					
授業目的・目標	優れた農業経営体(法人、個人等)での実習を通じて、農業経営体の持つ優れた生産管理に関する知識や技術を理解する。 学んだことをレポートにまとめ、発表することができる。					
準備学習等	作業内容の確認・予習を必ず行い、復習内容はその日のうちに日誌に記録すること。					
授業計画・内容	回数	内容				
	1、2	ガイダンス				
	3～22	【4月期】アウトウ栽培管理(人工受粉、防霜、加温ハウス栽培の着色管理)、				
	23～30	【5月期】アウトウ栽培管理(ビニール被覆、摘果、加温ハウス栽培の果実収穫)				
	31～58	【6～7月アウトウ雨よけハウス栽培の果実収穫、選別、出荷				
	59～86	【9月期】ブドウ、モモ、西洋ナシ(早生品種)の収穫、リンゴ着色管理				
	87～110	【10月期】リンゴ収穫、出荷、西洋ナシ(ラ・フランス)出荷				
	111～118	【11～12月期】リンゴ、西洋ナシ出荷、雪対策(支柱設置等、大枝の剪定)				
	119、120	報告会				
キーワード	臨地実務実習、生産管理					
教科書・参考書	最初の実習で資料を配布するほか、適宜、必要な資料を配布する。					
評価方法・評価基準	報告書(40%)、自己点検表(10%)、臨地実務実習指導者による評価(25%)、報告会(25%)					
関連科目	圃場実習Ⅰ、圃場実習Ⅱ「稲作」「果樹」「野菜・花き」「畜産」、農業実地体験実習、臨地実務実習Ⅱ(経営管理等)、臨地実務実習Ⅲ(経営総合)					
履修要件	「圃場実習Ⅰ」等を通じて、基礎的な技術を身に付けていること。					
備考	「授業計画・内容」については、果樹のモデルとして示したもので、実際には「臨地実務実習等実施要領」に基づき、履修前年度の11月に、担当教員が学生の希望に応じ、実習先をマッチング・決定し、実習先・学生・担当教員が協議した上で、3回から118回までの具体的な実習計画を決定する。 長期の宿泊を伴う実習となるため、規則正しい生活に心がけ、体調管理に留意すること。受入先の指導・指示に従って、作業を行うこと。					

授業名	臨地実務実習 I (生産管理等) On-site practical training I (Production management)	単位数	8単位	授業の方法	実習
履修年次	2年 通年				
受講対象	農林業経営学部 農業経営学科	科目区分	必修		
授業コード	A212	教員名	○小沢 互、農業経営学科の全専任教員		
授業時間	前期15日 [4月、5月、6月下旬～7月上旬の各2週間の実習 ウィーク(計30日)の中から任意の計15日を選択] 後期15日 [9月、10月、12月の各2週間の実習ウィーク(計30日) の中から任意の計15日を選択]	教室	臨地実務実習地		
オフィスアワー	随時受付ける。ただし、事前にメールで連絡すること。				
メールアドレス	〇〇@pref.yamagata.jp				
授業概要	自らが将来携わりたい農業経営形態について深く学び、経営ビジョンを描くために、作目や事業内容に応じマッチングした優れた農業経営体の元で実習を受けることは非常に有意義な事である。本科目では優れた農業経営体での実習を通じて、農業経営体の持つ生産管理に関する知識や技術を主に学ぶ。				
授業目的・目標	優れた農業経営体(法人、個人等)での実習を通じて、農業経営体の持つ優れた生産管理に関する知識や技術を理解する。 学んだことをレポートにまとめ、発表することができる。				
準備学習等	作業内容の確認・予習を必ず行い、復習内容はその日のうちに日誌に記録すること。				
授業計画・内容	回数	内容			
	1, 2	ガイダンス			
	3～22	【4月期】サンパチェンス生産管理(土詰め、挿し穂、灌水、鉢上げ、出荷)			
	23～42	【5月期】ミニシクラメン生産管理(鉢上げ、灌水)			
	43～62	【6～7月期】ミニシクラメン生産管理(灌水、鉢ずらし)			
	63～82	【9月期】ミニシクラメン生産管理(葉摘み、株整理、灌水)			
	83～110	【10月期】ミニシクラメン生産管理(株整理、出荷)			
	111～118	【11～12月期】サンパチェンス生産管理(育苗用土準備、苗管理)			
	119, 120	報告会			
キーワード	臨地実務実習、生産管理				
教科書・参考書	最初の実習で資料を配布するほか、適宜、必要な資料を配布する。				
評価方法・評価基準	報告書(40%)、自己点検表(10%)、臨地実務実習指導者による評価(25%)、報告会(25%)				
関連科目	圃場実習 I、圃場実習 II「稲作」「果樹」「野菜・花き」「畜産」、農業実地体験実習、臨地実務実習 II(経営管理等)、臨地実務実習 III(経営総合)				
履修要件	「圃場実習 I」等を通じて、基礎的な技術を身に付けていること。				
備考	「授業計画・内容」については、野菜花きのモデルとして示したもので、実際には「臨地実務実習等実施要領」に基づき、履修前年度の11月に、担当教員が学生の希望に応じ、実習先をマッチング・決定し、実習先・学生・担当教員が協議した上で、3回から118回までの具体的な実習計画を決定する。 長期の宿泊を伴う実習となるため、規則正しい生活に心がけ、体調管理に留意すること。 受入先の指導・指示に従って、作業を行うこと。				

授業名	臨地実務実習 I (生産管理等)		単位数	8単位	授業の方法	実習
	On-site practical training I (Production management)		履修年次	2年 通年		
受講対象	農林業経営学部 農業経営学科		科目区分	必修		
授業コード	A212	教員名	○小沢 互、農業経営学科の全専任教員			
授業時間	前期15日 [4月、5月、6月下旬～7月上旬の各2週間の実習 ウィーク(計30日)の中から任意の計15日を選択] 後期15日 [9月、10月、12月の各2週間の実習ウィーク(計30日) の中から任意の計15日を選択]			教室	臨地実務実習地	
オフィスアワー	随時受付ける。ただし、事前にメールで連絡すること。					
メールアドレス	〇〇@pref.yamagata.jp					
授業概要	自らが将来携わりたい農業経営形態について深く学び、経営ビジョンを描くために、作目や事業内容に応じマッチングした優れた農業経営体の元で実習を受けることは非常に有意義な事である。本科目では優れた農業経営体での実習を通じて、農業経営体の持つ生産管理に関する知識や技術を主に学ぶ。					
授業目的・目標	優れた農業経営体(法人、個人等)での実習を通じて、農業経営体の持つ優れた生産管理に関する知識や技術を理解する。 学んだことをレポートにまとめ、発表することができる。					
準備学習等	作業内容の確認・予習を必ず行い、復習内容はその日のうちに日誌に記録すること。					
授業計画・内容	回数	内容				
	1、2	ガイダンス				
	3～22	【4月期】繁殖牛生産管理(給餌、牛床清掃、糞尿処理、母牛管理)				
	23～42	【5月期】繁殖牛生産管理(給餌、牛床清掃、糞尿処理、種つけ)				
	43～62	【6～7月期】繁殖牛生産管理(給餌、牛床清掃、糞尿処理、子牛管理)				
	63～78	【9月期】肥育牛生産管理(飼料作物管理、給餌、牛床清掃、糞尿処理)				
	79～98	【10月期】肥育牛生産管理(配合飼料調整、給餌、牛床清掃、糞尿処理、ホールクロップサイレージ稲収穫・ラッピング)				
	99～118	【11～12月期】肥育牛生産管理(給餌、牛床清掃、糞尿処理、血液検査、ホールクロップサイレージ稲収穫・ラッピング)				
119、120	報告会					
キーワード	臨地実務実習、生産管理					
教科書・参考書	最初の実習で資料を配布するほか、適宜、必要な資料を配布する。					
評価方法・評価基準	報告書(40%)、自己点検表(10%)、臨地実務実習指導者による評価(25%)、報告会(25%)					
関連科目	圃場実習 I、圃場実習 II「稲作」「果樹」「野菜・花き」「畜産」、農業実地体験実習、臨地実務実習 II (経営管理等)、臨地実務実習 III (経営総合)					
履修要件	「圃場実習 I」等を通じて、基礎的な技術を身に付けていること。					
備考	「授業計画・内容」については、畜産のモデルとして示したもので、実際には「臨地実務実習等実施要領」に基づき、履修前年度の11月に、担当教員が学生の希望に応じ、実習先をマッチング・決定し、実習先・学生・担当教員が協議した上で、3回から118回までの具体的な実習計画を決定する。 長期の宿泊を伴う実習となるため、規則正しい生活に心がけ、体調管理に留意すること。 受入先の指導・指示に従って、作業を行うこと。					

授業名	臨地実務実習Ⅱ(経営管理等) On-site practical training II (Business management)		単位数	8単位	授業の方法	実習
受講対象	農林業経営学部 農業経営学科		履修年次	3年 通年		
授業コード	A305	教員名	○小沢 互、農業経営学科の全専任教員			
授業時間	前期15日 [4月、5月、6月下旬～7月上旬の各2週間の実習 ウィーク(計30日)の中から任意の計15日を選択] 後期15日 [9月、10月、12月の各2週間の実習ウィーク(計30日) の中から任意の計15日を選択]		教室	臨地実務実習地		
オフィスアワー	随時受付ける。ただし、事前にメールで連絡すること。					
メールアドレス	○○@pref.yamagata.jp					
授業概要	自らが将来携わりたい農業経営形態について深く学び、経営ビジョンを描くために、優れた農業経営体の元で実習を受けることは非常に有意義な事である。本科目では、優れた農業経営体の元で実習を行い、これまで学んできた生産管理に関する知識と技術を使いながら、経営管理に関する実践的な知識や技術について主に学ぶ。					
授業目的・目標	農業経営体の持続と発展に向けた適切な生産方法、効率的な人員配置、生産情報の収集と利用など、経営管理に関する実践的な知識や技術について理解する。 学んだ内容をレポートにまとめ、説明することができる。					
準備学習等	作業内容の確認・予習を必ず行い、復習内容はその日のうちに日誌に記録すること。					
授業計画・内容	回数	内容				
	1、2	ガイダンス				
	3～6	【4月期】経営管理(作付計画作成、顧客管理)				
	7～10	【4月期】生産管理(水稲播種、乾田直播、堆肥施用、肥料散布)				
	11～18	【5月期】経営管理(栽培進捗管理、受注管理)				
	19～22	【5月期】生産管理(田植え)				
	23～46	【6～7月期】経営管理(栽培進捗管理、受注管理)				
	47～58	【6～7月期】生産管理(ダイズ播種、畦畔草刈り、水田水管理)				
	59～74	【9月期】経営管理(作業進捗管理、水稲刈取り計画作成)				
	75～82	【9月期】生産管理(稲刈り、乾燥調製)				
	83～98	【10月期】経営管理(大豆刈取り計画作成、進捗管理)				
	99～106	【10月期】生産管理(ダイズ収穫)				
	107～114	【11～12月期】経営管理(生産費計算、収支計算、決算資料作成)				
	115～118	【11～12月期】生産管理(ダイズ調整、農機具整備)				
119、120	報告会					
キーワード	臨地実務実習、経営管理					
教科書・参考書	適宜、必要な資料を配布する。					
評価方法・評価基準	報告書(40%)、自己点検表(10%)、臨地実務実習指導者による評価(25%)、報告会(25%)					
関連科目	マーケティング論、組織マネジメント論、税制・簿記論、簿記各論、国際農業・森林業実習、圃場実習Ⅰ、圃場実習Ⅱ「稲作」「果樹」「野菜・花き」「畜産」、農業経済学、国際農業論、農業経営分析・計画、臨地実務実習Ⅰ(生産管理等)、臨地実務実習Ⅲ(経営総合)					
履修要件	「臨地実務実習Ⅰ」、「圃場実習Ⅰ」等を通じて、生産管理に関する実践的な知識や技術等を身に付けていること。					
備考	「授業計画・内容」については、稲作のモデルとして示したもので、実際には「臨地実務実習等実施要領」に基づき、履修前年度の11月に、担当教員が学生の希望に応じ、実習先をマッチング・決定し、実習先・学生・担当教員が協議した上で、3回から118回までの具体的な実習計画を決定する。 長期の宿泊を伴う実習となるため、規則正しい生活に心がけ、体調管理に留意すること。 受入先の指導・指示に従って、作業を行うこと。					

授業名	臨地実務実習Ⅱ(経営管理等) On-site practical trainingⅡ(Business management)		単位数	8単位	授業の方法	実習
履修年次	3年 通年					
受講対象	農林業経営学部 農業経営学科		科目区分	必修		
授業コード	A305	教員名	○小沢 互、農業経営学科の全専任教員			
授業時間	前期15日 [4月、5月、6月下旬～7月上旬の各2週間の実習 ウィーク(計30日)の中から任意の計15日を選択] 後期15日 [9月、10月、12月の各2週間の実習ウィーク(計30日) の中から任意の計15日を選択]		教室	臨地実務実習地		
オフィスアワー	随時受付ける。ただし、事前にメールで連絡すること。					
メールアドレス	○○@pref.yamagata.jp					
授業概要	自らが将来携わりたい農業経営形態について深く学び、経営ビジョンを描くために、優れた農業経営体の元で実習を受けることは非常に有意義な事である。本科目では、優れた農業経営体の元で実習を行い、これまで学んできた生産管理に関する知識と技術を使いながら、経営管理に関する実践的な知識や技術について主に学ぶ。					
授業目的・目標	農業経営体の持続と発展に向けた適切な生産方法、効率的な人員配置、生産情報の収集と利用など、経営管理に関する実践的な知識や技術について理解する。 学んだ内容をレポートにまとめ、説明することができる。					
準備学習等	作業内容の確認・予習を必ず行い、復習内容はその日のうちに日誌に記録すること。					
授業計画・内容	回数	内容				
	1、2	ガイダンス				
	3～8	【4月期】経営管理(作付計画作成、受注管理、加温ハウス栽培の着色管理)				
	9～10	【4月期】生産管理(オウトウ人工受粉、防霜)				
	11～18	【5月期】経営管理(受注管理、取引業者等との交渉・打合せ同行)				
	19～22	【5月期】生産管理(オウトウビニール被覆、摘果、加温ハウス栽培の果実収穫)				
	23～46	【6～7月期】経営管理(併設店舗での対面販売、接客)				
	47～58	【6～7月期】生産管理(オウトウ収穫、選別、出荷)				
	59～77	【9月期】経営管理(併設店舗での対面販売、接客)				
	78～86	【9月期】生産管理(ブドウ、モモ、西洋ナシの収穫、出荷。リンゴの着色管理)				
	87～102	【10月期】経営管理(受注・顧客管理、パンフレット送付)				
	103～110	【10月期】生産管理(ブドウ、モモ、西洋ナシの収穫、出荷。リンゴの着色管理)				
	111～116	【11～12月期】経営管理(受注・顧客管理、生産費計算、収支計算、決算資料作成)				
	117～118	【11～12月期】生産管理(農作業用機械メンテナンス等)				
119、120	報告会					
キーワード	臨地実務実習、経営管理					
教科書・参考書	適宜、必要な資料を配布する。					
評価方法・評価基準	報告書(40%)、自己点検表(10%)、臨地実務実習指導者による評価(25%)、報告会(25%)					
関連科目	マーケティング論、組織マネジメント論、税制・簿記論、簿記各論、国際農業・森林業実習、圃場実習Ⅰ、圃場実習Ⅱ「稲作」「果樹」「野菜・花き」「畜産」、農業経済学、国際農業論、農業経営分析・計画、臨地実務実習Ⅰ(生産管理等)、臨地実務実習Ⅲ(経営総合)					
履修要件	「臨地実務実習Ⅰ」、「圃場実習Ⅰ」等を通じて、生産管理に関する実践的な知識や技術等を身に付けていること。					
備考	「授業計画・内容」については、果樹のモデルとして示したもので、実際には「臨地実務実習等実施要領」に基づき、履修前年度の11月に、担当教員が学生の希望に応じ、実習先をマッチング・決定し、実習先・学生・担当教員が協議した上で、3回から118回までの具体的な実習計画を決定する。 長期の宿泊を伴う実習となるため、規則正しい生活に心がけ、体調管理に留意すること。 受入先の指導・指示に従って、作業を行うこと。					

授業名	臨地実務実習Ⅱ(経営管理等) On-site practical trainingⅡ(Business management)		単位数	8単位	授業の方法	実習
			履修年次	3年 通年		
受講対象	農林業経営学部 農業経営学科		科目区分	必修		
授業コード	A305	教員名	○小沢 互、農業経営学科の全専任教員			
授業時間	前期15日 [4月、5月、6月下旬～7月上旬の各2週間の実習ウィーク(計30日)の中から任意の計15日を選択] 後期15日 [9月、10月、12月の各2週間の実習ウィーク(計30日)の中から任意の計15日を選択]		教室	臨地実務実習地		
オフィスアワー	随時受付ける。ただし、事前にメールで連絡すること。					
メールアドレス	○○@pref.yamagata.jp					
授業概要	自らが将来携わりたい農業経営形態について深く学び、経営ビジョンを描くために、優れた農業経営体の元で実習を受けることは非常に有意義な事である。本科目では、優れた農業経営体の元で実習を行い、これまで学んできた生産管理に関する知識と技術を使いながら、経営管理に関する実践的な知識や技術について主に学ぶ。					
授業目的・目標	農業経営体の持続と発展に向けた適切な生産方法、効率的な人員配置、生産情報の収集と利用など、経営管理に関する実践的な知識や技術について理解する。 学んだ内容をレポートにまとめ、説明することができる。					
準備学習等	作業内容の確認・予習を必ず行い、復習内容はその日のうちに日誌に記録すること。					
授業計画・内容	回数	内容				
	1, 2	ガイダンス				
	3～16	【4月期】ミニシクラメン経営管理(作付計画・施設の稼働シミュレーション作成、受注管理)				
	17～22	【4月期】サンパチェンス生産管理(土詰め、挿し穂、灌水、鉢上げ)				
	23～36	【5月期】ミニシクラメン経営管理(作業進捗管理、作業計画・労務管理計画作成)				
	37～42	【5月期】サンパチェンス生産管理(株管理、出荷)				
	43～56	【6～7月期】全般経営管理(次作作付計画立案)				
	57～62	【6～7月期】ミニシクラメン生産管理(灌水、鉢ずらし)				
	63～76	【9月期】全般経営管理(次作経費、販売計画立案)				
	77～82	【9月期】ミニシクラメン生産管理(葉摘み、株整理、灌水)				
	83～101	【10月期】サンパチェンス経営管理(栽培計画・施設の稼働シミュレーション作成)				
	102～110	【10月期】ミニシクラメン生産管理(株整理、出荷)				
	111～116	【11～12月期】サンパチェンス経営管理(労務管理計画作成、顧客管理、生産費計算、収支計算、決算資料作成)				
	117～118	【11～12月期】サンパチェンス生産管理(育苗用土準備、苗管理)				
119、120	報告会					
キーワード	臨地実務実習、経営管理					
教科書・参考書	適宜、必要な資料を配布する。					
評価方法・評価基準	報告書(40%)、自己点検表(10%)、臨地実務実習指導者による評価(25%)、報告会(25%)					
関連科目	マーケティング論、組織マネジメント論、税制・簿記論、簿記各論、国際農業・森林業実習、圃場実習Ⅰ、圃場実習Ⅱ「稲作」「果樹」「野菜・花き」「畜産」、農業経済学、国際農業論、農業経営分析・計画、臨地実務実習Ⅰ(生産管理等)、臨地実務実習Ⅲ(経営総合)					
履修要件	「臨地実務実習Ⅰ」、「圃場実習Ⅰ」等を通じて、生産管理に関する実践的な知識や技術等を身に付けていること。					
備考	「授業計画・内容」については、野菜花きのモデルとして示したもので、実際には「臨地実務実習等実施要領」に基づき、履修前年度の11月に、担当教員が学生の希望に応じ、実習先をマッチング・決定し、実習先・学生・担当教員が協議した上で、3回から118回までの具体的な実習計画を決定する。 長期の宿泊を伴う実習となるため、規則正しい生活に心がけ、体調管理に留意すること。 受入先の指導・指示に従って、作業を行うこと。					

授業名	臨地実務実習Ⅱ(経営管理等)		単位数	8単位	授業の方法	実習
	On-site practical training Ⅱ(Business management)		履修年次	3年 通年		
受講対象	農林業経営学部 農業経営学科		科目区分	必修		
授業コード	A305	教員名	○小沢 互、農業経営学科の全専任教員			
授業時間	前期15日 [4月、5月、6月下旬～7月上旬の各2週間の実習ウィーク(計30日)の中から任意の計15日を選択] 後期15日 [9月、10月、12月の各2週間の実習ウィーク(計30日)の中から任意の計15日を選択]		教室	臨地実務実習地		
オフィスアワー	随時受付ける。ただし、事前にメールで連絡すること。					
メールアドレス	○○@pref.yamagata.jp					
授業概要	自らが将来携わりたい農業経営形態について深く学び、経営ビジョンを描くために、優れた農業経営体の元で実習を受けることは非常に有意義な事である。本科目では、優れた農業経営体の元で実習を行い、これまで学んできた生産管理に関する知識と技術を使いながら、経営管理に関する実践的な知識や技術について主に学ぶ。					
授業目的・目標	農業経営体の持続と発展に向けた適切な生産方法、効率的な人員配置、生産情報の収集と利用など、経営管理に関する実践的な知識や技術について理解する。 学んだ内容をレポートにまとめ、説明することができる。					
準備学習等	作業内容の確認・予習を必ず行い、復習内容はその日のうちに日誌に記録すること。					
授業計画・内容	回数	内容				
	1, 2	ガイダンス				
	3～16	【4月期】繁殖牛経営管理(生産費計算、収支計算、人員配置と労務管理)				
	17～22	【4月期】繁殖牛生産管理(給餌、牛床清掃、糞尿処理、母牛管理)				
	23～36	【5月期】繁殖牛経営管理(生産原価の計算、損益分岐点の計算、人員配置と労務管理)				
	37～42	【5月期】繁殖牛生産管理(給餌、牛床清掃、糞尿処理、種つけ)				
	43～56	【6～7月期】繁殖牛経営管理(生産原価の計算、損益分岐点の計算、人員配置と労務管理)				
	57～62	【6～7月期】繁殖牛生産管理(給餌、牛床清掃、糞尿処理、子牛管理)				
	63～70	【9月期】肥育牛経営管理(飼料作物のコスト計算、生産原価の計算、損益分岐点の計算)				
	71～78	【9月期】肥育牛生産管理(飼料作物管理、給餌、牛床清掃、糞尿処理)				
	79～92	【10月期】肥育牛経営管理(配合飼料のコスト計算、生産原価の計算、損益分岐点の計算)				
	93～98	【10月期】肥育牛生産管理(配合飼料調整、給餌、牛床清掃、糞尿処理、ホールクロップサイレージ稲収穫・ラッピング)				
	99～112	【11～12月期】肥育牛経営管理(肉質と販売単価の試算、生産費計算、修士計算、決算資料作成)				
	113～118	【11～12月期】肥育牛生産管理(給餌、牛床清掃、糞尿処理、血液検査、ホールクロップサイレージ稲収穫・ラッピング)				
119, 120	報告会					
キーワード	臨地実務実習、経営管理					
教科書・参考書	適宜、必要な資料を配布する。					
評価方法・評価基準	報告書(40%)、自己点検表(10%)、臨地実務実習指導者による評価(25%)、報告会(25%)					
関連科目	マーケティング論、組織マネジメント論、税制・簿記論、簿記各論、国際農業・森林業実習、圃場実習Ⅰ、圃場実習Ⅱ「稲作」「果樹」「野菜・花き」「畜産」、農業経済学、国際農業論、農業経営分析・計画、臨地実務実習Ⅰ(生産管理等)、臨地実務実習Ⅲ(経営総合)					
履修要件	「臨地実務実習Ⅰ」、「圃場実習Ⅰ」等を通じて、生産管理に関する実践的な知識や技術等を身に付けていること。					
備考	「授業計画・内容」については、畜産のモデルとして示したもので、実際には「臨地実務実習等実施要領」に基づき、履修前年度の11月に、担当教員が学生の希望に応じ、実習先をマッチング・決定し、実習先・学生・担当教員が協議した上で、3回から118回までの具体的な実習計画を決定する。 長期の宿泊を伴う実習となるため、規則正しい生活に心がけ、体調管理に留意すること。 受入先の指導・指示に従って、作業を行うこと。					

授業名	臨地実務実習Ⅲ(経営総合) On-site practical training Ⅲ(General management)		単位数	8単位	授業の方法	実習
			履修年次	4年 通年		
受講対象	農林業経営学部 農業経営学科		科目区分	必修		
授業コード	A401	教員名	○小沢 互、農業経営学科の全専任教員			
授業時間	前期15日 [4月、5月、6月下旬～7月上旬の各2週間の実習ウィーク(計30日)の中から任意の計15日を選択] 後期15日 [9月、10月、12月の各2週間の実習ウィーク(計30日)の中から任意の計15日を選択]			教室	臨地実務実習地	
オフィスアワー	随時受付ける。ただし、事前にメールで連絡すること。					
メールアドレス	○○@pref.yamagata.jp					
授業概要	自らが将来携わりたい経営形態について深く学び、経営ビジョンを描くために、経営形態に応じマッチングした優れた農業経営体の元で実習を受けることは非常に有意義な事である。本科目では、優れた農業経営体での実習を通じ、これまで学んできた知識や技術を総合化し、農業経営体における経営戦略の立案・実行に関する知識や技術について主に学ぶ。					
授業目的・目標	これまで学んできた知識や技術を総合化し、農業経営体における課題を分析、整理して解決を図るとともに、新たな経営戦略・改善策をとりまとめ、発表することができる。					
準備学習等	作業内容の確認・予習を必ず行い、復習内容はその日のうちに日誌に記録すること。					
授業計画・内容	回数	内容				
	1、2	ガイダンス				
	3～6	【4月期】経営総合(スマート農機利用計画作成、圃場情報システム操作方法)				
	7～10	【4月期】経営管理(作付計画作成、受注管理)				
	11～14	【4月期】生産管理(水稲播種、乾田直播、堆肥施用、肥料散布)				
	15～22	【5月期】経営総合(作業時間等調査)				
	23～28	【5月期】経営管理(栽培進捗管理、受注管理)				
	29～34	【5月期】生産管理(田植え)				
	35～44	【6～7月期】経営総合(作業時間等調査、規模拡大シミュレーション)				
	45～52	【6～7月期】経営管理(栽培進捗管理、受注管理)				
	53～58	【6～7月期】生産管理(ダイズ播種、畦畔草刈り、水田水管理)				
	59～66	【9月期】経営総合(作業時間等調査、規模拡大シミュレーション)				
	67～72	【9月期】経営管理(水稲刈取り計画作成、進捗管理)				
	73～78	【9月期】生産管理(稲刈り、乾燥調製)				
	79～84	【10月期】経営総合(作業時間等調査)				
	85～92	【10月期】経営管理(大豆刈取り計画作成、進捗管理)				
	93～98	【10月期】生産管理(ダイズ収穫)				
	99～106	【11～12月期】経営総合(スマート農機導入効果試算(作業時間、生産費、収支))				
107～112	【11～12月期】経営管理(生産費計算、収支計算、決算資料作成)					
113～118	【11～12月期】生産管理(ダイズ調整、農機具整備)					
119、120	臨地実務実習先への報告会					
キーワード	臨地実務実習、経営総合、経営戦略、立案・実行手法					
教科書・参考書	適宜、必要な資料を配布する。					
評価方法・評価基準	報告書(40%)、自己点検表(10%)、臨地実務実習指導者による評価(25%)、報告会(25%)					
関連科目	組織マネジメント論、税制・簿記論、簿記各論、臨地実務実習Ⅰ(生産管理等)、臨地実務実習Ⅱ(経営管理等)、国際農業・森林業実習、圃場実習Ⅰ、圃場実習Ⅱ「稲作」「果樹」「野菜・花き」「畜産」、農業経済学、国際農業論、農業経営分析・計画					
履修要件	「臨地実務実習Ⅱ」を通じて、経営管理等を身に付けていること。					
備考	「授業計画・内容」については、稲作のモデルとして示したもので、実際には「臨地実務実習等実施要領」に基づき、履修前年度の11月に、担当教員が学生の希望に応じ、実習先をマッチング・決定し、実習先・学生・担当教員が協議した上で、3回から118回までの具体的な実習計画を決定する。長期の宿泊を伴う実習となるため、規則正しい生活に心がけ、体調管理に留意すること。受入先の指導・指示に従って、作業を行うこと。					

授業名	臨地実務実習Ⅲ(経営総合) On-site practical training Ⅲ(General management)	単位数	8単位	授業の方法	実習
履修年次	4年 通年				
受講対象	農林業経営学部 農業経営学科	科目区分	必修		
授業コード	A401	教員名	○小沢 互、農業経営学科の全専任教員		
授業時間	前期15日 [4月、5月、6月下旬～7月上旬の各2週間の実習ウィーク(計30日)の中から任意の計15日を選択] 後期15日 [9月、10月、12月の各2週間の実習ウィーク(計30日)の中から任意の計15日を選択]	教室	臨地実務実習地		
オフィスアワー	随時受け付ける。ただし、事前にメールで連絡すること。				
メールアドレス	○○@pref.yamagata.jp				
授業概要	自らが将来携わりたい経営形態について深く学び、経営ビジョンを描くために、経営形態に応じマッチングした優れた農業経営体の元で実習を受けることは非常に有意義な事である。本科目では、優れた農業経営体での実習を通じ、これまで学んできた知識や技術を総合化し、農業経営体における経営戦略の立案・実行に関する知識や技術について主に学ぶ。				
授業目的・目標	これまで学んできた知識や技術を総合化し、農業経営体における課題を分析、整理して解決を図るとともに、新たな経営戦略・改善策をとりまとめ、発表することができる。				
準備学習等	作業内容の確認・予習を必ず行い、復習内容はその日のうちに日記に記録すること。				
授業計画・内容	回数	内容			
	1、2	ガイダンス			
	3～16	【4月期】経営総合(ユニバーサルデザイン(UD)計画作成、顧客受入準備)			
	17～28	【4月期】経営管理(作付計画作成、受注管理、加温ハウス栽培の着色管理)			
	29～38	【4月期】生産管理(アウトウ人工受粉、防霜)			
	39～42	【5月期】経営総合(顧客受入準備、UD対応)			
	43～44	【5月期】経営管理(受注管理、取引業者等との交渉・打合せ同行)			
	45～46	【5月期】生産管理(アウトウビニール被覆、摘果、加温ハウス栽培の果実収穫)			
	47～50	【6～7月期】経営総合(アンケート調査)			
	51～54	【6～7月期】経営管理(併設店舗での対面販売、接客)			
	55～58	【6～7月期】生産管理(アウトウ収穫、選別、出荷)			
	59～68	【9月期】経営総合(アンケート調査)			
	69～78	【9月期】経営管理(併設店舗での対面販売、接客)			
	79～86	【9月期】生産管理(ブドウ、モモ、西洋ナシの収穫、出荷。リンゴの着色管理)			
	87～100	【10月期】経営総合(アンケート調査)			
	101～106	【10月期】経営管理(受注・顧客管理、パンフレット送付)			
	107～110	【10月期】生産管理(ブドウ、モモ、西洋ナシの収穫、出荷。リンゴの着色管理)			
	111～114	【11～12月期】経営総合(アンケートの取りまとめ、改善プラン作成)			
	115～116	【11～12月期】経営管理(受注・顧客管理、資金管理、取引業者等との交渉・打合せ同行)			
117～118	【11～12月期】生産管理(農作業用機械メンテナンス等)				
119、120	臨地実務実習先への報告会				
キーワード	臨地実務実習、経営総合、経営戦略、立案・実行手法				
教科書・参考書	適宜、必要な資料を配布する。				
評価方法・評価基準	報告書(40%)、自己点検表(10%)、臨地実務実習指導者による評価(25%)、報告会(25%)				
関連科目	組織マネジメント論、税制・簿記論、簿記各論、臨地実務実習Ⅰ(生産管理等)、臨地実務実習Ⅱ(経営管理等)、国際農業・森林業実習、圃場実習Ⅰ、圃場実習Ⅱ「稲作」「果樹」「野菜・花き」「畜産」、農業経済学、国際農業論、農業経営分析・計画				
履修要件	「臨地実務実習Ⅱ」を通じて、経営管理等を身に付けていること。				
備考	「授業計画・内容」については、果樹のモデルとして示したもので、実際には「臨地実務実習等実施要領」に基づき、履修前年度の11月に、担当教員が学生の希望に応じ、実習先をマッチング・決定し、実習先・学生・担当教員が協議した上で、3回から118回までの具体的な実習計画を決定する。 長期の宿泊を伴う実習となるため、規則正しい生活に心がけ、体調管理に留意すること。 受入先の指導・指示に従って、作業を行うこと。				

授業名	臨地実務実習Ⅲ(経営総合) On-site practical training Ⅲ(General management)	単位数	8単位	授業の方法	実習
		履修年次	4年 通年		
受講対象	農林業経営学部 農業経営学科	科目区分	必修		
授業コード	A401	教員名	○小沢 互、農業経営学科の全専任教員		
授業時間	前期15日 [4月、5月、6月下旬～7月上旬の各2週間の実習ウィーク(計30日)の中から任意の計15日を選択] 後期15日 [9月、10月、12月の各2週間の実習ウィーク(計30日)の中から任意の計15日を選択]	教室	臨地実務実習地		
オフィスアワー	随時受け付ける。ただし、事前にメールで連絡すること。				
メールアドレス	○○@pref.yamagata.jp				
授業概要	自らが将来携わりたい経営形態について深く学び、経営ビジョンを描くために、経営形態に応じマッチングした優れた農業経営体の元で実習を受けることは非常に有意義な事である。本科目では、優れた農業経営体での実習を通じ、これまで学んできた知識や技術を総合化し、農業経営体における経営戦略の立案・実行に関する知識や技術について主に学ぶ。				
授業目的・目標	これまで学んできた知識や技術を総合化し、農業経営体における課題を分析、整理して解決を図るとともに、新たな経営戦略・改善策をとりまとめ、発表することができる。				
準備学習等	作業内容の確認・予習を必ず行い、復習内容はその日のうちに日誌に記録すること。				
授業計画・内容	回数	内容			
	1、2	ガイダンス			
	3～12	【4月期】経営総合(販売ブース準備、アンケート準備)			
	13～17	【4月期】ミニクラメン経営管理(栽培計画・施設の稼働シミュレーション作成)			
	18～22	【4月期】サンパチェンス生産管理(土詰め、挿し穂、灌水、鉢上げ)			
	23～32	【5月期】経営総合(店舗販売(BtoCの実践))			
	33～37	【5月期】ミニクラメン経営管理(労務管理計画作成)			
	38～42	【5月期】サンパチェンス生産管理(株管理、出荷)			
	43～52	【6～7月期】経営総合(店舗販売(BtoCの実践))			
	53～57	【6～7月期】全般経営管理(次作作付計画立案)			
	58～62	【6～7月期】ミニクラメン生産管理(灌水、鉢ずらし)			
	63～72	【9月期】経営総合(アンケート集計)			
	73～77	【9月期】全般経営管理(次作経費、販売計画立案)			
	78～82	【9月期】ミニクラメン生産管理(葉摘み、株整理、灌水)			
	83～96	【10月期】経営総合(次作販売戦略構築)			
	97～103	【10月期】サンパチェンス経営管理(栽培計画・施設の稼働シミュレーション作成)			
	104～110	【10月期】ミニクラメン生産管理(株整理、出荷)			
	111～114	【11～12月期】経営総合(次作販売戦略構築)			
	115～116	【11～12月期】サンパチェンス経営管理(労務管理計画作成)			
117～118	【11～12月期】サンパチェンス生産管理(育苗用土準備、苗管理)				
119、120	臨地実務実習先への報告会				
キーワード	臨地実務実習、経営総合、経営戦略、立案・実行手法				
教科書・参考書	適宜、必要な資料を配布する。				
評価方法・評価基準	報告書(40%)、自己点検表(10%)、臨地実務実習指導者による評価(25%)、報告会(25%)				
関連科目	組織マネジメント論、税制・簿記論、簿記各論、臨地実務実習Ⅰ(生産管理等)、臨地実務実習Ⅱ(経営管理等)、国際農業・森林業実習、圃場実習Ⅰ、圃場実習Ⅱ「稲作」「果樹」「野菜・花き」「畜産」、農業経済学、国際農業論、農業経営分析・計画				
履修要件	「臨地実務実習Ⅱ」を通じて、経営管理等を身に付けていること。				
備考	「授業計画・内容」については、野菜花きのモデルとして示したもので、実際には「臨地実務実習等実施要領」に基づき、履修前年度の11月に、担当教員が学生の希望に応じ、実習先をマッチング・決定し、実習先・学生・担当教員が協議した上で、3回から118回までの具体的な実習計画を決定する。長期の宿泊を伴う実習となるため、規則正しい生活に心がけ、体調管理に留意すること。受入先の指導・指示に従って、作業を行うこと。				

授業名	臨地実務実習Ⅲ(経営総合) On-site practical training Ⅲ(General management)		単位数	8単位	授業の方法	実習
			履修年次	4年 通年		
受講対象	農林業経営学部 農業経営学科		科目区分	必修		
授業コード	A401	教員名	○小沢 互、農業経営学科の全専任教員			
授業時間	前期15日 [4月、5月、6月下旬～7月上旬の各2週間の実習ウィーク(計30日)の中から任意の計15日を選択] 後期15日 [9月、10月、12月の各2週間の実習ウィーク(計30日)の中から任意の計15日を選択]		教室	臨地実務実習地		
オフィスアワー	随時受付ける。ただし、事前にメールで連絡すること。					
メールアドレス	○○@pref.yamagata.jp					
授業概要	自らが将来携わりたい経営形態について深く学び、経営ビジョンを描くために、経営形態に応じマッチングした優れた農業経営体の元で実習を受けることは非常に有意義な事である。本科目では、優れた農業経営体での実習を通じ、これまで学んできた知識や技術を総合化し、農業経営体における経営戦略の立案・実行に関する知識や技術について主に学ぶ。					
授業目的・目標	これまで学んできた知識や技術を総合化し、農業経営体における課題を分析、整理して解決を図るとともに、新たな経営戦略・改善策をとりまとめ、発表することができる。					
準備学習等	作業内容の確認・予習を必ず行い、復習内容はその日のうちに日誌に記録すること。					
授業計画・内容	回数	内容				
	1、2	ガイダンス				
	3～12	【4月期】経営総合(国産飼料の作付計画立案、ホールクロップサイレージの給餌、母牛管理、種付け)				
	13～17	【4月期】繁殖牛経営管理(生産原価の計算、損益分岐点の計算、人員配置と労務管理)				
	18～22	【4月期】繁殖牛生産管理(給餌、牛床清掃、糞尿処理、母牛管理)				
	23～32	【5月期】経営総合(ホールクロップサイレージの給餌、母牛管理、種付け、受胎率調査)				
	33～37	【5月期】繁殖牛経営管理(生産原価の計算、損益分岐点の計算、人員配置と労務管理)				
	38～42	【5月期】繁殖牛生産管理(給餌、牛床清掃、糞尿処理、種付け)				
	43～52	【6～7月期】経営総合(ホールクロップサイレージの給餌、母牛管理、種付け、受胎率調査)				
	53～57	【6～7月期】繁殖牛経営管理(生産原価の計算、損益分岐点の計算、人員配置と労務管理)				
	58～62	【6～7月期】繁殖牛生産管理(給餌、牛床清掃、糞尿処理、子牛管理)				
	63～70	【9月期】経営総合(子牛管理・発育調査、大規模ホールクロップサイレージ生産用機械の比較検討)				
	71～74	【9月期】肥育牛経営管理(飼料作物のコスト計算、生産原価の計算、損益分岐点の計算)				
	75～78	【9月期】肥育牛生産管理(飼料作物管理、給餌、牛床清掃、糞尿処理)				
	79～88	【10月期】経営総合(子牛管理・発育調査、大規模ホールクロップサイレージ生産時の生産費用試算と輸入飼料との比較検討)				
	89～93	【10月期】肥育牛経営管理(配合飼料のコスト計算、生産原価の計算、損益分岐点の計算)				
	94～98	【10月期】肥育牛生産管理(配合飼料調整、給餌、牛床清掃、糞尿処理、ホールクロップサイレージ稲収穫・ラッピング)				
	99～108	【11～12月期】経営総合(ホールクロップサイレージ利用による経営試算と戦略構築)				
	109～113	【11～12月期】肥育牛経営管理(肉質と販売単価の試算、生産原価の計算、損益分岐点の計算、税務処理)				
114～118	【11～12月期】肥育牛生産管理(給餌、牛床清掃、糞尿処理、血液検査、ホールクロップサイレージ稲収穫・ラッピング)					
119、120	臨地実務実習先への報告会					
キーワード	臨地実務実習、経営総合、経営戦略、立案・実行手法					
教科書・参考書	適宜、必要な資料を配布する。					
評価方法・評価基準	報告書(40%)、自己点検表(10%)、臨地実務実習指導者による評価(25%)、報告会(25%)					
関連科目	組織マネジメント論、税制・簿記論、簿記各論、臨地実務実習Ⅰ(生産管理等)、臨地実務実習Ⅱ(経営管理等)、国際農業・森林業実習、圃場実習Ⅰ、圃場実習Ⅱ「稲作」「果樹」「野菜・花き」「畜産」、農業経済学、国際農業論、農業経営分析・計画					
履修要件	「臨地実務実習Ⅱ」を通じて、経営管理等を身に付けていること。					
備考	「授業計画・内容」については、畜産のモデルとして示したもので、実際には「臨地実務実習等実施要領」に基づき、履修前年度の11月に、担当教員が学生の希望に応じ、実習先をマッチング・決定し、実習先・学生・担当教員が協議した上で、3回から118回までの具体的な実習計画を決定する。 長期の宿泊を伴う実習となるため、規則正しい生活に心がけ、体調管理に留意すること。 受入先の指導・指示に従って、作業を行うこと。					

近隣大学の農学系学部及び農林業系専門職大学の志願状況

大学名	学部名	学科名	入学年度	日程等	募集人員	志願者数	志願倍率	受験者数	受験倍率	合格者数	入学者数
岩手大学	農学部	植物生命科学科	H29	前期	29	47	1.6	45	1.6	32	32
				後期	6	29	4.8	17	2.8	6	6
				推薦	5	11	2.2	11	2.2	5	5
				私費	若干名	1	-	1	-	1	0
			H30	前期	30	48	1.6	45	1.5	33	32
				後期	5	16	3.2	5	1.0	4	4
				推薦	5	4	0.8	4	0.8	4	4
				私費	若干名	4	-	3	-	1	1
			R1	前期	30	48	1.6	45	1.5	35	34
				後期	5	11	2.2	1	0.2	1	1
				推薦	5	10	2.0	10	2.0	5	5
				私費	若干名	1	-	1	-	0	0
			R2	前期	30	31	1.0	30	1.0	30	26
				後期	5	32	6.4	8	1.6	8	7
				推薦	5	7	1.4	7	1.4	5	5
				私費	若干名	2	-	2	-	2	2
			R3	前期	28	33	1.2	30	1.1	31	26
				後期	4	19	4.8	10	2.5	6	5
				推薦	4	14	3.5	14	3.5	6	6
				総合Ⅱ	4	5	1.3	5	1.3	4	4
		私費		若干名	0	-	0	-	0	0	
		R4	前期	28	55	2.0	52	1.9	34	30	
			後期	4	24	6.0	15	3.8	4	3	
			推薦	4	11	2.8	11	2.8	7	7	
			総合Ⅱ	4	4	1.0	4	1.0	2	2	
			私費	若干名	1	-	1	-	1	1	
		森林科学科	H29	前期	20	46	2.3	46	2.3	22	21
				後期	6	35	5.8	16	2.7	6	6
				推薦	4	12	3.0	12	3.0	5	5
				私費	若干名	1	-	1	-	1	1
			H30	前期	20	34	1.7	34	1.7	22	21
				後期	5	38	7.6	16	3.2	5	3
				推薦	5	12	2.4	12	2.4	5	5
				私費	若干名	1	-	1	-	0	0
			R1	前期	20	41	2.1	40	2.0	23	18
				後期	5	27	5.4	11	2.2	9	8
				推薦	5	10	2.0	10	2.0	5	5
				私費	若干名	0	-	0	-	0	0
			R2	前期	20	45	2.3	44	2.2	23	23
				後期	5	46	9.2	16	3.2	5	5
推薦	5			13	2.6	13	2.6	5	5		
私費	若干名			0	-	0	-	0	0		
R3	前期		18	28	1.6	25	1.4	20	19		
	後期		4	21	5.3	1	0.3	1	1		
	推薦		5	13	2.6	13	2.6	6	6		
	総合Ⅱ		3	7	2.3	7	2.3	3	3		
	私費	若干名	0	-	0	-	0	0			
R4	前期	18	40	2.2	37	2.1	25	25			
	後期	4	30	7.5	14	3.5	4	3			
	推薦	5	10	2.0	10	2.0	5	5			
	総合Ⅱ	3	3	1.0	3	1.0	2	2			
	私費	若干名	0	-	0	-	0	0			
H29	食料生産環境学科 農村地域デザイン学コース 食産業システム学コース	前期	27	50	1.9	50	1.9	31	31		
		後期	7	47	6.7	22	3.1	8	8		
		推薦	6	4	0.7	4	0.7	4	4		
		私費	若干名	1	-	1	-	0	0		

大学名	学部名	学科名	入学年度	日程等	募集人員	志願者数	志願倍率	受験者数	受験倍率	合格者数	入学者数			
			H30	前期	27	36	1.3	35	1.3	29	29			
				後期	7	19	2.7	7	1.0	6	5			
				推薦	6	13	2.2	13	2.2	6	6			
				私費	若干名	1	-	1	-	1	1			
			R1	前期	27	32	1.2	32	1.2	32	32			
				後期	7	17	2.4	3	0.4	4	4			
				推薦	6	7	1.2	7	1.2	6	6			
				私費	若干名	1	-	1	-	0	0			
			R2	前期	29	43	1.5	42	1.4	33	31			
				後期	5	29	5.8	10	2.0	6	4			
				推薦	6	7	1.2	7	1.2	6	6			
				私費	若干名	1	-	1	-	0	0			
			R3	前期	26	39	1.5	36	1.4	33	32			
				後期	4	13	3.3	5	1.3	4	3			
				推薦	6	9	1.5	9	1.5	6	6			
				総合Ⅱ	4	1	0.3	1	0.3	1	1			
				私費	若干名	0	-	0	-	0	0			
			R4	前期	26	48	1.8	43	1.7	30	28			
				後期	4	21	5.3	10	2.5	4	4			
				推薦	6	11	1.8	11	1.8	7	7			
				総合Ⅱ	4	5	1.3	5	1.3	4	4			
				私費	若干名	0	-	0	-	0	0			
			秋田県立大学	生物資源科学部	応用生物科学科	H29	前期	20	117	5.9	103	5.2	27	20
							後期	8	142	17.8	44	5.5	14	8
推薦	12	29					2.4	29	2.4	12	12			
H30	前期	20				89	4.5	73	3.7	29	22			
	後期	8				168	21.0	49	6.1	11	6			
	推薦	12				19	1.6	19	1.6	12	12			
R1	前期	20				70	3.5	59	3.0	27	21			
	後期	8				115	14.4	32	4.0	11	7			
	推薦	12				25	2.1	25	2.1	15	15			
R2	前期	20				105	5.3	93	4.7	24	18			
	後期	8				128	16.0	34	4.3	16	13			
	推薦	12				28	2.3	28	2.3	13	13			
R3	前期	20			52	2.6	46	2.3	27	22				
	後期	8			137	17.1	29	3.6	10	7				
	総合	2			6	3.0	6	3.0	2	2				
	学校推薦	10			16	1.6	16	1.6	12	12				
R4	前期	20			154	7.7	141	7.1	29	23				
	後期	8			202	25.3	53	6.6	12	7				
	総合	2			4	2.0	4	2.0	3	3				
	学校推薦	10			13	1.3	13	1.3	8	8				
生物生産科学科	H29	前期			20	95	4.8	89	4.5	28	26			
		後期			8	91	11.4	38	4.8	8	8			
		推薦			12	23	1.9	23	1.9	13	13			
	H30	前期			20	103	5.2	94	4.7	26	17			
		後期	8	85	10.6	32	4.0	20	17					
		推薦	12	12	1.0	12	1.0	12	12					
	R1	前期	20	53	2.7	47	2.4	27	25					
		後期	8	108	13.5	34	4.3	8	6					
		推薦	12	16	1.3	16	1.3	10	10					
	R2	前期	20	120	6.0	108	5.4	25	20					
		後期	8	119	14.9	39	4.9	14	12					
		推薦	12	14	1.2	14	1.2	11	11					
R3	前期	20	43	2.2	35	1.8	26	22						
	後期	8	109	13.6	32	4.0	15	11						
	総合	2	4	2.0	4	2.0	2	2						
	学校推薦	10	7	0.7	7	0.7	7	7						
R4	前期	20	56	2.8	49	2.5	30	22						
	後期	8	102	12.8	33	4.1	14	12						
	総合	2	5	2.5	5	2.5	2	2						
	学校推薦	10	7	0.7	7	0.7	7	7						

大学名	学部名	学科名	入学年度	日程等	募集人員	志願者数	志願倍率	受験者数	受験倍率	合格者数	入学者数	
		生物環境科学科	H29	前期	15	105	7.0	96	6.4	22	17	
				後期	6	113	18.8	43	7.2	9	6	
				推薦	9	11	1.2	11	1.2	8	8	
			H30	前期	15	50	3.3	45	3.0	22	19	
				後期	6	88	14.7	28	4.7	9	9	
				推薦	9	10	1.1	10	1.1	9	9	
			R1	前期	15	56	3.7	50	3.3	23	20	
				後期	6	81	13.5	26	4.3	8	7	
				推薦	9	7	0.8	7	0.8	6	6	
			R2	前期	15	92	6.1	80	5.3	19	16	
				後期	6	99	16.5	29	4.8	7	6	
				推薦	9	16	1.8	16	1.8	11	11	
			R3	前期	15	47	3.1	42	2.8	19	17	
				後期	6	92	15.3	24	4.0	7	4	
				総合	2	7	3.5	7	3.5	3	3	
				学校推薦	7	10	1.4	10	1.4	8	8	
			R4	前期	15	65	4.3	60	4.0	20	19	
				後期	6	86	14.3	27	4.5	6	5	
				総合	2	6	3.0	6	3.0	4	4	
				学校推薦	7	6	0.9	6	0.9	5	5	
			アグリビジネス学科	H29	前期	16	48	3.0	46	2.9	26	19
					後期	6	60	10.0	18	3.0	12	8
					推薦	18	17	0.9	17	0.9	15	15
				H30	前期	16	37	2.3	34	2.1	22	17
		後期			6	44	7.3	16	2.7	6	6	
		推薦			18	25	1.4	25	1.4	21	21	
		R1		前期	16	116	7.3	110	6.9	21	17	
				後期	6	83	13.8	42	7.0	8	4	
				推薦	18	26	1.4	26	1.4	20	20	
		R2		前期	16	73	4.6	63	3.9	23	17	
				後期	6	63	10.5	17	2.8	6	6	
				推薦	18	28	1.6	28	1.6	20	20	
		R3		前期	16	31	1.9	27	1.7	23	14	
				後期	6	29	4.8	6	1.0	12	9	
				総合	2	8	4.0	8	4.0	4	4	
				学校推薦	16	14	0.9	14	0.9	14	14	
R4	前期	16		57	3.6	46	2.9	21	17			
	後期	6		57	9.5	22	3.7	6	5			
	総合	2		6	3.0	6	3.0	5	5			
	学校推薦	16		23	1.4	22	1.4	18	18			
山形大学	農学部	食料生命環境学科		H29	前期	95	199	2.1	196	2.1	116	106
					後期	30	151	5.0	151	5.0	41	18
					推薦	40	84	2.1	84	2.1	40	40
					私費 若干名	13	-	13	-	6	1	
			H30	前期	95	245	2.6	231	2.4	114	100	
				後期	25	325	13.0	325	13.0	41	21	
				AO	5	24	4.8	10	2.0	5	5	
				推薦	40	64	1.6	64	1.6	42	42	
				私費 若干名	26	-	26	-	8	2		
			R1	前期	95	183	1.9	177	1.9	114	103	
				後期	25	165	6.6	165	6.6	37	14	
				AO	5	25	5.0	9	1.8	6	6	
				推薦	40	68	1.7	68	1.7	42	42	
				特別 若干名	25	-	25	-	9	3		
			R2	前期	95	156	1.6	153	1.6	126	109	
				後期	25	78	3.1	78	3.1	30	16	
				AO	5	15	3.0	10	2.0	5	5	
				推薦	40	63	1.6	63	1.6	40	40	
				特別 若干名	22	-	22	-	6	1		

大学名	学部名	学科名	入学年度	日程等	募集人員	志願者数	志願倍率	受験者数	受験倍率	合格者数	入学者数			
			R3	前期	95	309	3.3	288	3.0	118	107			
				後期	25	346	13.8	346	13.8	33	10			
				総合推薦	5	9	1.8	9	1.8	5	5			
				特別	40	49	1.2	49	1.2	43	43			
				特別	若干名	19	-	19	-	5	2			
			R4	前期	95	185	1.9	180	1.9	123	114			
				後期	25	183	7.3	183	7.3	26	5			
				総合推薦	5	18	3.6	10	2.0	5	5			
				特別	40	79	2.0	79	2.0	41	41			
				特別	若干名	11	-	11	-	6	2			
東北大学	農学部		H29	前期	114	311	2.7	290	2.5	116	116			
				AO	36	122	3.4	93	2.6	38	38			
				特別	若干名	2	-	1	-	0	0			
			H30	前期	112	329	2.9	307	2.7	114	112			
				AO	38	132	3.5	104	2.7	39	39			
				特別	若干名	5	-	5	-	2	1			
			R1	前期	112	316	2.8	288	2.6	114	112			
				AOⅡ	20	74	3.7	74	3.7	20	20			
				AOⅢ	18	64	3.6	28	1.6	19	19			
				特別	若干名	10	-	6	-	2	0			
			R2	前期	112	273	2.4	253	2.3	115	115			
				AOⅡ	20	80	4.0	80	4.0	20	20			
				AOⅢ	18	64	3.6	30	1.7	19	19			
				特別	若干名	3	-	3	-	2	1			
			R3	前期	105	295	2.8	269	2.6	111	107			
				AOⅡ	23	78	3.4	40	1.7	23	23			
				AOⅢ	22	44	2.0	33	1.5	18	18			
				特別	若干名	3	-	0	-	0	0			
			R4	前期	105	261	2.5	232	2.2	112	112			
				AOⅡ	23	58	2.5	40	1.7	23	23			
				AOⅢ	22	43	2.0	32	1.5	22	22			
				特別	若干名	4	-	3	-	2	1			
			福島大学	食農学類		R1	前期	60	190	3.2	179	3.0	67	61
							後期	20	247	12.4	73	3.7	30	26
AO	20	58					2.9	58	2.9	20	20			
R2	前期	60				99	1.7	94	1.6	68	62			
	後期	20				152	7.6	22	1.1	20	16			
	AO	20				50	2.5	49	2.5	20	20			
R3	前期	60				133	2.2	122	2.0	70	65			
	後期	20				197	9.9	58	2.9	23	17			
	AO	20				41	2.1	41	2.1	22	22			
R4	前期	60				156	2.6	146	2.4	67	62			
	後期	20				207	10.4	61	3.1	26	23			
	総合	20				34	1.7	34	1.7	21	21			
静岡県立農林環境専門職大学	生産環境経営学部	生産環境経営学科	R2	一般	12	48	4.0	45	3.8	18	15			
				推薦	12	18	1.5	18	1.5	11	11			
				特別	若干名	1	-	1	-	1	1			
			R3	一般	12	47	3.9	40	3.3	18	16			
				推薦	12	24	2.0	24	2.0	12	12			
				特別	若干名	1	-	1	-	0	0			
			R4	一般	12	34	2.8	31	2.6	15	14			
				推薦	12	20	1.7	20	1.7	12	12			
				特別	若干名	4	-	4	-	0	0			

出典:各大学HP

※合格者数には、追加合格者数を含む

※東北大学の受験者数は第2次選考受験者

東北農林専門職大学（仮称）設置に関するアンケート調査（高校生）

報 告 書

令和5年3月

一般財団法人 日本開発構想研究所

目 次

<アンケート調査概要>.....	2
<アンケート集計結果（クロス集計）の概要>	
問10 東北農林専門職大学（仮称）への進学意向×問11 進学希望学科	4
問5 「農林学関係」「経営学関係」「食物学・栄養学関係」×問4 「大学・専門職大学進学」×問8 本学を「受験したい」×問10「進学したい」	5
問5 「経済学関係」「工学関係（情報除く）」「理学関係（生物、化学、地学、物理等）」「情報学関係」×問4 「大学・専門職大学進学」×問8 本学を「受験したい」×問10「進学したい」	6
問5 「農林学関係」「経営学関係」「食物学・栄養学関係」×問4 「大学・専門職大学進学」×問8 本学を「受験先として検討したい」×問10「進学したい」×問6 進学先決定時重視項目×問9 受験理由	8
<アンケート調査集計表>.....	12
<アンケート調査票>.....	23

<アンケート調査概要>

＜アンケート調査概要＞

1. アンケート実施の目的

本調査は、「東北農林専門職大学（仮称）設置に関するアンケート調査」として高校生に対して東北農林専門職大学（仮称）への進学希望等について尋ね、学生の確保の見通しを測ることを目的とする。

2. 調査対象

- ・東北6県に所在する高校に在籍する高校2年生（初回）
- ・東北6県（初回未実施校）、北海道、新潟県、長野県、栃木県、茨城県、群馬県に所在する高校に在籍する高校2年生（追加実施）

3. 調査実施

（初回）令和4年6～9月、（追加実施）令和4年12月～令和5年2月

4. 調査方法

一般財団法人日本開発構想研究所がアンケート調査票を各高等学校へ郵送し、調査票の回収及び集計を行った。

5. 回収状況

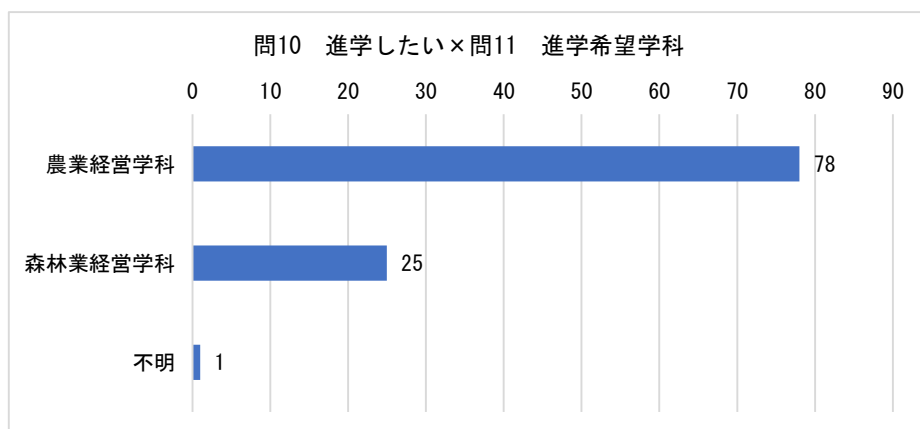
依頼数：127校 回答数：105校（回収率82.7%）10,629名（初回）

依頼数：411校 回答数：228校（回収率55.5%）19,475名（追加含む合計）

<アンケート集計結果（クロス集計）の概要>

クロス集計 問10 東北農林専門職大学（仮称）への進学意向×問11 進学希望学科

問10において東北農林専門職大学（仮称）に「進学したい」と回答した生徒（104人）のうち、問11で農業経営学科への進学を希望した回答者は78人、森林業経営学科への進学を希望した回答者は25人となっており、各学科の入学定員（農業経営学科32名、森林業経営学科8名）を超える結果となった。



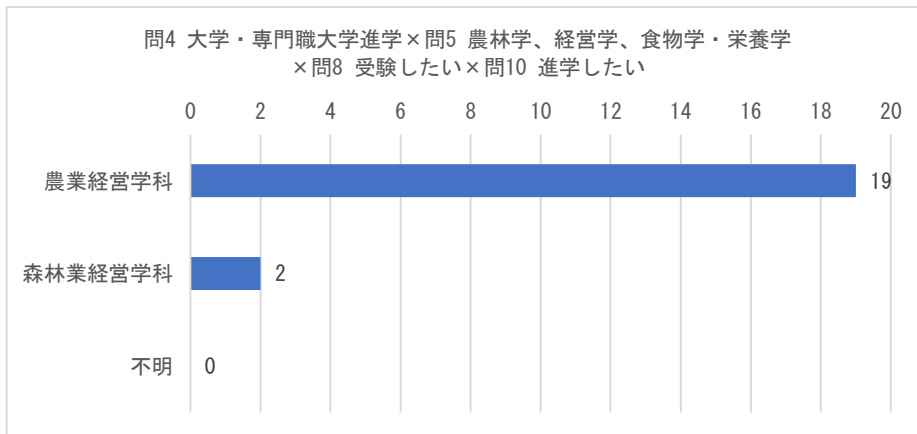
問10 進学意向×問11 進学希望学科

上段:人 下段:%		問11 進学希望学科			
		合計	農業経営 学科	森林業 経営学科	不明
問10 進学意向	全体	343 100.0	257 74.9	82 23.9	4 1.2
	進学したい	104 100.0	78 75.0	25 24.0	1 1.0
	進学先の候補として検討したい	239 100.0	179 74.9	57 23.8	3 1.3

■ クロス集計

- 問5 「1 農林学関係」「3 経営学関係」「15 食物学・栄養学関係」に関心あり
- ×問4 「1 大学・専門職大学進学」を希望
- ×問8 本学を「1 受験したい」
- ×問10 本学に「1 進学したい」

①問5で「1 農林学関係」「3 経営学関係」「15 食物学・栄養学関係」に興味があり、②問4で「1 大学・専門職大学進学」を希望し、③問8で本専門職大学を「1 受験したい」との意向を持ち、④問10で本専門職大学に合格したら「1 進学したい」者、の全ての条件に当てはまる者が何名いるかクロス集計を行ったところ、農業経営学科で19名、森林業経営学科で2名が該当した。これらの回答者の進学希望分野を勘案すると、上記回答者は本学に強い進学意向を有すると考えられる。



問4 卒業後の進路×問5 進学希望分野×問8 受験意向×問10 進学意向×問11 進学希望学科

上段:人 下段:%		問11 進学希望学科			
		合計	農業経営学科	森林業経営学科	不明
問4-1 大学・専門職大学進学	問5-1 農林学、3 経営学、15 食物学・栄養学				
問8-1 受験したい					
問10 進学意向	全体	24 100.0	22 91.7	2 8.3	0 0.0
	進学したい	21 100.0	19 90.5	2 9.5	0 0.0
	進学先の候補として検討したい	3 100.0	3 100.0	0 0.0	0 0.0

■ クロス集計

問5「6 経済学関係」「11 工学関係（情報除く）」「12 理学関係（生物、化学、地学、物理等）」「13 情報学関係」に関心あり

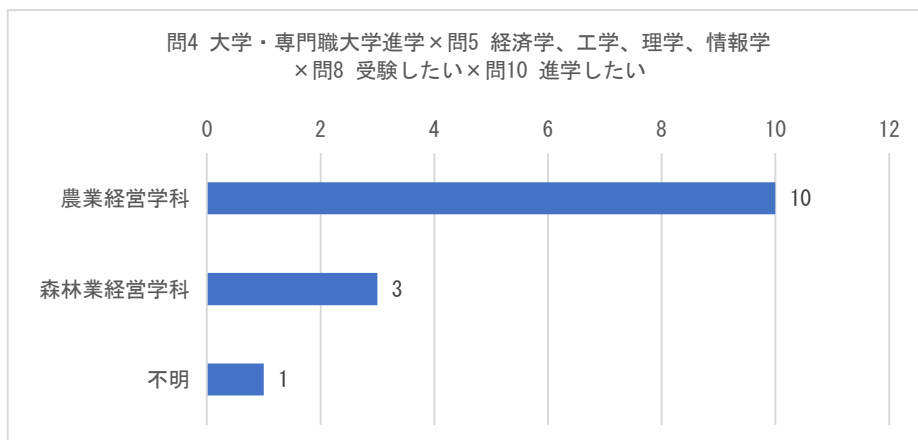
×問4「1 大学・専門職大学進学」を希望

×問8 本学を「1 受験したい」

×問10 本学に「1 進学したい」

①問5で農林業とも関係の深い「6 経済学関係」、スマート農林業で関係のある「11 工学関係（情報除く）」、農林業と関係の深い「12 理学関係（生物、化学、地学、物理等）」、森林情報学などで関係の深い「13 情報学関係」に興味があり、②問4で「1 大学・専門職大学進学」を希望し、③問8で本専門職大学を「1 受験したい」との意向を持ち、④問10で本専門職大学に合格したら「1 進学したい」者、の全ての条件に当てはまる者が何名いるかクロス集計を行ったところ、農業経営学科で10名、森林業経営学科で3名が該当した。これらの回答者の進学希望分野は本学の教育内容と関係が深いことを勘案すると、上記回答者は本学への入学を強く期待できる。

また、上記13名のうち、問5で「1 農林学関係」「3 経営学関係」「15 食物学・栄養学関係」のいずれかを選択した者を除いた10名（農業経営学科7名、森林業経営学科3名）と5頁のクロス集計結果の人数を合わせると、農業経営学科で26名、森林業経営学科で5名が入学意向を示していることとなる。



問4 卒業後の進路×問5 進学希望分野×問8 受験意向×問10 進学意向×問11 進学希望学科

上段:人 下段:% 問4-1 大学・専門職大学進学 問5-6 経済学、11 工学、12 理学、13 情報学 問8-1 受験したい		問11 進学希望学科			
		合計	農業経営 学科	森林業経 営学科	不明
問10 進学意向	全体	20 100.0	14 70.0	5 25.0	1 5.0
	進学したい	14 100.0	10 71.4	3 21.4	1 7.1
	進学先の候補として検討したい	6 100.0	4 66.7	2 33.3	0 0.0

■ クロス集計

- 問5 「1 農林学関係」「3 経営学関係」「15 食物学・栄養学関係」に関心あり
- ×問4 「1 大学・専門職大学進学」を希望
- ×問8 本学を「2 受験先として検討したい」
- ×問10 本学に「1 進学したい」
- ×問6 進学先決定時重視項目
- ×問9 受験理由

①問5で「1 農林学関係」「3 経営学関係」「15 食物学・栄養学関係」に興味があり、②問4で「1 大学・専門職大学進学」を希望し、③問8で本専門職大学を「受験先として検討したい」との意向を持ち、④問10で本専門職大学に合格したら「1 進学したい」者、の全ての条件に当てはまる者のうち、

- ・進学先決定時重視項目（問6）において「9 学費（入学金・授業料）の金額」「15 国公立か私立か」のいずれかを選択し、かつ受験理由（問9）について「6 授業料が安いから」「9 公立大学だから」のいずれかを選択した者
 - ・進学先決定時重視項目（問6）において「10 学校の所在地」を選択し、かつ受験理由（問9）について「3 自宅から通学圏内にある大学だから」を選択した者
 - ・受験理由（問9）について「7 専門職大学だから」を選択した者
- は、農業経営学科で9名、森林業経営学科で4名該当した（次ページ表）。

この13名は「受験先として検討したい」と回答しているものの、本専門職大学は公立の専門職大学であり、進学先決定時重視項目（問6）及び受験理由（問9）の回答状況からすると、本専門職大学への受験意向は高いと考えられ、また、合格したら進学したいと回答していることから、本専門職大学への入学を強く期待できる。

この13名と6頁の2つのクロス集計の合計結果の人数を合わせると、農業経営学科で35名、森林業経営学科で9名が入学意向を示していることとなる。以上の調査結果からすると、本学開設にあたっては、両学科の入学定員（農業経営学科32名、森林業経営学科8名）を充足するものと推定される（10頁表）。

問4 卒業後の進路×問5 進学希望分野×問8 受験意向×問10 進学意向×問11 進学希望学科
 ×問6 進学先決定時重視事項×問9 受験理由

問4	問5	問8	問10	問6	問9	該当数
大学・ 専門職 大学進 学	「農林学関 係」 「経営学関 係」 「食物学・栄 養学関係」 のいずれかを選 択	受験先 として 検討し たい	進学し たい	「学費（入学金・授業 料）の金額」 「国公立か私立か」 のいずれかを選択	「授業料が安いから」 「公立大学だから」 のいずれかを選択	9 (うち農6、 森3) ※
				「学校の所在地」を選択	「自宅から通学圏内にある 大学だから」を選択	2 (うち農1、 森1)
				—	「専門職大学だから」を選 択	2 (うち農2、 森0)
				合計		13 (うち農9、 森4)

※「農」農業経営学科、「森」森林業経営学科

【5頁～9頁の該当数合計】

問4	問5	問8	問10	問6	問9	該当数
大学・ 専門職 大学進 学	「農林学関 係」 「経営学関 係」 「食物学・栄 養学関係」 のいずれかを 選択	受験し たい	進学し たい	—	—	21 (うち農 19、 森 2) ※1
大学・ 専門職 大学進 学	「経済学関 係」 「工学関係 (情報除 く)」 「理学関係 (生物、化 学、地学、 物理等)」 「情報学関 係」 のいずれかを 選択	受験し たい	進学し たい	—	—	10 (うち農 7、 森 3) ※2
大学・ 専門職 大学進 学	「農林学関 係」 「経営学関 係」 「食物学・栄 養学関係」 のいずれかを 選択	受験先 として 検討し たい	進学し たい	「学費(入学金・授業 料)の金額」 「国公立か私立か」 のいずれかを選択	「授業料が安いから」 「公立大学だから」 のいずれかを選択	9 (うち農 6、 森 3)
				「学校の所在地」 を選択	「自宅から通学圏内にある 大学だから」を選択	2 (うち農 1、 森 1)
				—	「専門職大学だから」を選 択	2 (うち農 2、 森 0)
					合計	44 (うち農 35、 森 9)

※1 「農」農業経営学科、「森」森林業経営学科

※2 問5で「農林学関係」「経営学関係」「食物学・栄養学関係」のいずれかを選択した者を除く。

〈アンケート調査集計表〉

問1 性別

あなたの性別についておたずねします。次の中から1つだけ選んでください。

問1 性別 (SA)

No.	カテゴリ	件数	%
1	男性	9676	49.7
2	女性	9517	48.9
3	その他	273	1.4
	不明	9	0.0
	合計	19475	100.0

問2 居住地

あなたがお住まいの都道府県についておたずねします。次の中から1つだけ選んでください。

問2 居住地 (SA)

No.	カテゴリ	件数	%
1	山形県内（村山地域）	3520	18.1
2	山形県内（最上地域）	564	2.9
3	山形県内（置賜地域）	1264	6.5
4	山形県内（庄内地域）	1805	9.3
5	青森県	660	3.4
6	岩手県	1238	6.4
7	宮城県	1632	8.4
8	秋田県	1555	8.0
9	福島県	1110	5.7
10	その他	6113	31.4
	不明	14	0.1
	合計	19475	100.0

「その他」の主な内訳は「栃木県」1,310件、「北海道」1,247件、「新潟県」822件、「群馬県」786件、「茨城県」678件、「長野県」677件。

問3 在籍学科

あなたが在籍する高校の学科についておたずねします。次の中から在籍している学科を1つだけ選んでください。

問3 在籍学科

(SA)

No.	カテゴリ	件数	%
1	普通科・理系（理数科等を含む）	7725	39.7
2	普通科・文系	3570	18.3
3	普通科・探究コース	273	1.4
4	普通科・文理選択無し	1723	8.8
5	探究科	300	1.5
6	農業科	2604	13.4
7	林業科	144	0.7
8	工業科	1108	5.7
9	商業科	630	3.2
10	総合学科	606	3.1
11	その他	765	3.9
	不明	27	0.1
	合計	19475	100.0

【高校卒業後のことについてお聞きします】

問4 卒業後の進路

あなたの進路についておたずねします。あなたは高校卒業後どのような進路を希望していますか。次の中からもっとも希望に近い進路を1つだけ選んでください。

問4 卒業後の進路

(SA)

No.	カテゴリ	件数	%
1	大学・専門職大学進学	12090	62.1
2	短期大学・専門職短期大学進学	753	3.9
3	専門学校進学	2849	14.6
4	就職	3523	18.1
5	その他	244	1.3
	不明	16	0.1
	合計	19475	100.0

問5 進学希望分野

あなたが進学したいと考えている分野は何ですか。次の中から関心のある分野を全て選んでください。

(問4で「大学・専門職大学進学」「短期大学・専門職短期大学進学」「専門学校進学」を選択した15,692人が回答)

問5 進学希望分野 (複数回答)

(MA)

No.	カテゴリ	件数	%
1	農林学関係	1143	7.3
2	文学関係 (史学・哲学含む)	1190	7.6
3	経営学関係	1446	9.2
4	国際関係 (外国語含む)	1199	7.6
5	法学・政治学関係	942	6.0
6	経済学関係	1601	10.2
7	社会学・社会福祉学関係	867	5.5
8	心理学関係	1558	9.9
9	教育学・保育学関係	2205	14.1
10	美術学・音楽学関係	1233	7.9
11	工学関係 (情報除く)	2584	16.5
12	理学関係 (生物、化学、地学、物理等)	2748	17.5
13	情報学関係	2104	13.4
14	家政学関係 (被服・住居)	300	1.9
15	食物学・栄養学関係	1409	9.0
16	医学・歯学・薬学関係	2762	17.6
17	看護・リハビリテーション学関係	3474	22.1
18	体育学・スポーツ関係	1387	8.8
19	その他	1116	7.1
	不明	66	0.4
	合計	15692	100.0

問6 進学先決定時の重視項目

あなたが進学先を決める場合に重視するものを、次の中から優先順位第3位まで選んでください。

(問4で「大学・専門職大学進学」「短期大学・専門職短期大学進学」「専門学校進学」を選択した15,692人が回答)

問6 進学先決定時の重視項目 (第1位)

(SA)

No.	カテゴリ	件数	%
1	学部・学科の専攻分野	6263	39.9
2	教員の充実度	139	0.9
3	希望する資格が取れる	2805	17.9
4	就職の実績が良い	1181	7.5
5	就職支援の取組が充実している	163	1.0
6	地元地域との連携・交流が盛ん	17	0.1
7	施設が充実している	282	1.8
8	クラブ活動等が充実している	111	0.7
9	学費(入学金・授業料)の金額	831	5.3
10	学校の所在地	732	4.7
11	入試選抜方法や難易度が自分にあう	1214	7.7
12	現役大学生や卒業生等の意見	50	0.3
13	担任や進路指導教員の意見	12	0.1
14	家族(親や兄弟)の意見	104	0.7
15	国公立か私立か	1553	9.9
16	特色ある教育研究	73	0.5
17	その他	74	0.5
	不明	88	0.6
	合計	15692	100.0

問6 進学先決定時の重視項目（第2位）

(SA)

No.	カテゴリ	件数	%
1	学部・学科の専攻分野	1882	12.0
2	教員の充実度	491	3.1
3	希望する資格が取れる	2246	14.3
4	就職の実績が良い	1736	11.1
5	就職支援の取組が充実している	387	2.5
6	地元地域との連携・交流が盛ん	78	0.5
7	施設が充実している	908	5.8
8	クラブ活動等が充実している	141	0.9
9	学費（入学金・授業料）の金額	1777	11.3
10	学校の所在地	1866	11.9
11	入試選抜方法や難易度が自分にあう	1823	11.6
12	現役大学生や卒業生等の意見	186	1.2
13	担任や進路指導教員の意見	64	0.4
14	家族（親や兄弟）の意見	371	2.4
15	国公立か私立か	1462	9.3
16	特色ある教育研究	129	0.8
17	その他	40	0.3
	不明	105	0.7
	合計	15692	100.0

問6 進学先決定時の重視項目（第3位）

(SA)

No.	カテゴリ	件数	%
1	学部・学科の専攻分野	1125	7.2
2	教員の充実度	357	2.3
3	希望する資格が取れる	1324	8.4
4	就職の実績が良い	1411	9.0
5	就職支援の取組が充実している	390	2.5
6	地元地域との連携・交流が盛ん	107	0.7
7	施設が充実している	1355	8.6
8	クラブ活動等が充実している	217	1.4
9	学費（入学金・授業料）の金額	1967	12.5
10	学校の所在地	2467	15.7
11	入試選抜方法や難易度が自分にあう	1856	11.8
12	現役大学生や卒業生等の意見	304	1.9
13	担任や進路指導教員の意見	132	0.8
14	家族（親や兄弟）の意見	773	4.9
15	国公立か私立か	1468	9.4
16	特色ある教育研究	232	1.5
17	その他	62	0.4
	不明	145	0.9
	合計	15692	100.0

【東北農林専門職大学（仮称）についてお聞きします。お配りしたリーフレットをお読みになった上でお答えください。】

問7 興味・関心のある特色

東北農林専門職大学（仮称）には以下のような特色があります。あなたはどの特色に魅力を感じますか。次の中から関心のあるものを全て選んでください。

（問4で「大学・専門職大学進学」「短期大学・専門職短期大学進学」「専門学校進学」を選択した15,692人が回答）

問7 興味・関心のある特色（複数回答）

(MA)

No.	カテゴリ	件数	%
1	経営感覚と現場感覚に優れ、理論に裏打ちされた実践力を備えた人材の育成	4696	29.9
2	戦略的な経営に取り組める農林業人材の育成	2664	17.0
3	農林業を核とした関連産業の振興や価値の創出に資する人材の育成	2066	13.2
4	最前線の需要をつかみ、新たな市場を開拓することができる人材の育成	2550	16.3
5	高度で先進的な生産技術を修得した人材の育成	2476	15.8
6	山形県をはじめ東北6県の多様な農業又は森林業産地での実習	3559	22.7
7	海外の先進的な取組等を学ぶ海外実習	4051	25.8
8	新たな事業展開へつなげていくための他分野の知識を修得することができる	1884	12.0
9	フィールドワークなどを通じて地域課題の解決策を学ぶことができる	2255	14.4
10	農林業に必要な資格が取得できる	3414	21.8
11	少人数教育による学生一人ひとりが持つ能力を最大限に引き出す教育	3677	23.4
12	キャリアサポートセンターによる充実したキャリア形成支援	1242	7.9
13	その他	200	1.3
	不明	568	3.6
	合計	15692	100.0

問8 東北農林専門職大学（仮称）の受験意向

あなたは東北農林専門職大学（仮称）を受験したいと思いますか。次の中から1つだけ選んでください。

（問4で「大学・専門職大学進学」「短期大学・専門職短期大学進学」「専門学校進学」を選択した15,692人が回答）

問8 受験意向 (SA)

No.	カテゴリ	件数	%
1	受験したい	84	0.5
2	受験先として検討したい	357	2.3
3	わからない	2787	17.8
4	受験先として考えていない	12303	78.4
	不明	161	1.0
	合計	15692	100.0

問9 東北農林専門職大学（仮称）の受験理由

あなたが東北農林専門職大学（仮称）を受験したい、あるいは受験先として検討したい理由は何ですか。次の中から3つまで選んでください。

（問8で東北農林専門職大学（仮称）を「受験したい」「受験先として検討したい」と回答した441人が回答）

問9 受験理由（複数回答） (MA)

No.	カテゴリ	件数	%
1	興味のある学問分野だから	273	61.9
2	農林業分野に必要な知識・技術が学べるから	213	48.3
3	自宅から通学圏内にある大学だから	76	17.2
4	学べる内容やカリキュラムが良さそうだから	146	33.1
5	進路指導教諭から勧められたから	21	4.8
6	授業料が安いから	43	9.8
7	専門職大学だから	47	10.7
8	校舎や施設が充実していそうだから	120	27.2
9	公立大学だから	119	27.0
10	優れた教員が多そうだから	27	6.1
11	就職に有利そうだから	85	19.3
12	親の農林業経営を継承するため	35	7.9
13	その他	5	1.1
	不明	8	1.8
	合計	441	100.0

問 10 東北農林専門職大学（仮称）への進学意向

あなたは東北農林専門職大学（仮称）に合格したら、進学したいと思いますか。次の中から 1つだけ選んでください。

（問8で東北農林専門職大学（仮称）を「受験したい」「受験先として検討したい」と回答した441人が回答）

問 10 進学意向

(SA)

No.	カテゴリ	件数	%
1	進学したい	104	23.6
2	進学先の候補として検討したい	239	54.2
3	現時点ではまだわからない	78	17.7
4	進学を希望しない	12	2.7
	不明	8	1.8
	合計	441	100.0

問 11 進学希望学科

あなたは東北農林専門職大学（仮称）の2学科のうち、どちらの学科に進学したいと考えますか。次の中から 1つだけ選んでください。

（問 10 で東北農林専門職大学（仮称）に「進学したい」「進学先の候補として検討したい」と回答した343人が回答）

問 11 進学希望学科

(SA)

No.	カテゴリ	件数	%
1	農業経営学科	257	74.9
2	森林業経営学科	82	23.9
	不明	4	1.2
	合計	343	100.0

問 12 卒業後の希望就職先

【就職のことについてお聞きします】

あなたは大学・短大・専門学校等を卒業後、就職先として下記のいずれを希望しますか。次の中から**3つまで**選んでください。**回答後は問14にお進みください。**

(問10で東北農林専門職大学(仮称)に「進学したい」「進学先の候補として検討したい」と回答した343人が回答)

問 12 卒業後の希望就職先 (複数回答)

(MA)

No.	カテゴリ	件数	%
1	就職 (農業法人等に就職)	146	42.6
2	就職 (自営 実家を継承)	98	28.6
3	就職 (自営 独立)	85	24.8
4	林業就業 (森林組合、林業事業者等)	67	19.5
5	農業協同組合	95	27.7
6	林業公社	27	7.9
7	官公庁 (公務員)	88	25.7
8	製造業	35	10.2
9	卸売・小売・飲食業	60	17.5
10	建設業	23	6.7
11	不動産業	12	3.5
12	運輸・通信業	15	4.4
13	金融・保険業	29	8.5
14	サービス業	42	12.2
15	その他	20	5.8
	不明	22	6.4
	合計	343	100.0

問13 東北農林専門職大学（仮称）を受験先としない理由

あなたが東北農林専門職大学（仮称）を受験するかわからない、あるいは受験先として考えない理由は何ですか。次の中から3つまで選んでください。

（問 8 で東北農林専門職大学（仮称）を「受験先として考えていない」「わからない」と回答した 15,090 人が回答）

問 13 受験先としない理由

(MA)

No.	カテゴリ	件数	%
1	農林業系以外の学問分野に進学したいから	12774	84.7
2	農林業系の別の大学に進学したいから	3591	23.8
3	大学校など農林業系の2年制短期大学や専修学校（専門学校）に進学したいから	761	5.0
4	新設大学だから	1028	6.8
5	自宅から通学圏外にある大学だから	3591	23.8
6	入試の難易度が高そうだから	1259	8.3
7	4年間の授業料総額が高いから	1475	9.8
8	短大や専門学校に進学して早く社会に出たいから	981	6.5
9	専門職大学についてよく分からないから	3541	23.5
10	その他	836	5.5
	不明	400	2.7
	合計	15090	100.0

高校卒業後の進学状況

【全国の卒業生数及び進学状況】

(単位:人)

学科	年	卒業生数	大学等 進学者数 (進学率)			専修学校 (専門課程) (進学率) 進学者数
			大学 (学部) (進学率)	短期大学 (本科) (進学率)		
全	平成29年	1,069,568	585,184 (54.7%)	528,686 (49.4%)	51,426 (4.8%)	173,676 (16.2%)
	平成30年	1,056,378	578,041 (54.7%)	524,158 (49.6%)	48,696 (4.6%)	168,782 (16.0%)
	令和元年	1,050,559	574,308 (54.7%)	523,466 (49.8%)	45,798 (4.4%)	172,059 (16.4%)
	令和2年	1,037,284	578,341 (55.8%)	529,009 (51.0%)	44,200 (4.3%)	174,822 (16.9%)
	令和3年	1,012,007	580,550 (57.4%)	534,312 (52.8%)	40,969 (4.0%)	175,185 (17.3%)
普通	平成29年	781,366	499,610 (63.9%)	462,193 (59.2%)	36,955 (4.7%)	115,026 (14.7%)
	平成30年	772,647	493,221 (63.8%)	457,807 (59.3%)	34,839 (4.5%)	111,901 (14.5%)
	令和元年	770,346	492,570 (63.9%)	458,757 (59.6%)	33,240 (4.3%)	115,320 (15.0%)
	令和2年	760,444	496,348 (65.3%)	463,945 (61.0%)	31,802 (4.2%)	118,106 (15.5%)
	令和3年	741,295	496,242 (66.9%)	466,686 (63.0%)	28,893 (3.9%)	115,188 (15.5%)
農業	平成29年	26,856	3,934 (14.6%)	2,664 (9.9%)	1,223 (4.6%)	6,802 (25.3%)
	平成30年	26,187	3,698 (14.1%)	2,484 (9.5%)	1,146 (4.4%)	6,989 (26.7%)
	令和元年	25,523	3,600 (14.1%)	2,556 (10.0%)	985 (3.9%)	6,637 (26.0%)
	令和2年	25,367	3,564 (14.0%)	2,395 (9.4%)	1,109 (4.4%)	6,530 (25.7%)
	令和3年	24,696	3,675 (14.9%)	2,462 (10.0%)	1,154 (4.7%)	6,994 (28.3%)

出典:文部科学省「学校基本調査」

大学進学率の増加(H29→R3)
 全学科 3.4ポイント
 普通科 3.8ポイント
 農業科 0.1ポイント

【山形県の卒業生数及び進学状況】

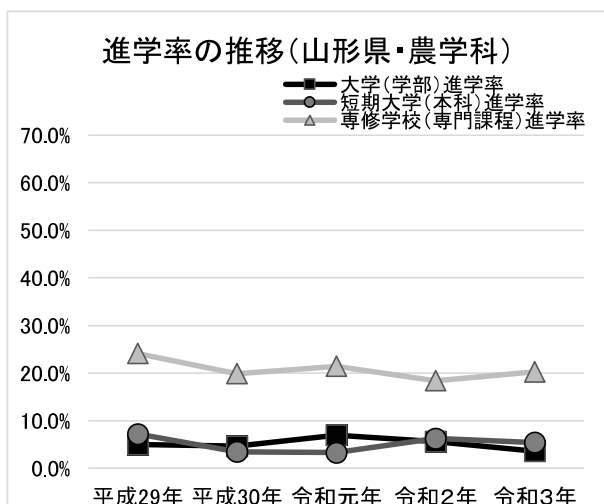
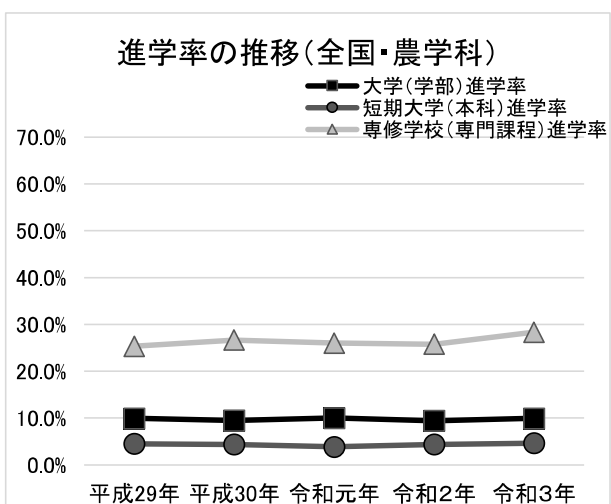
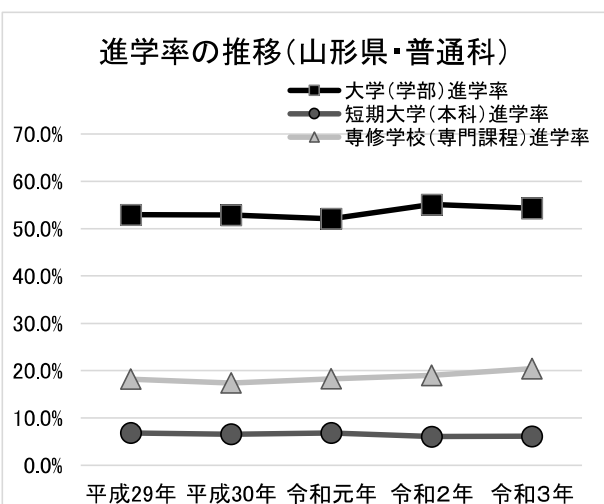
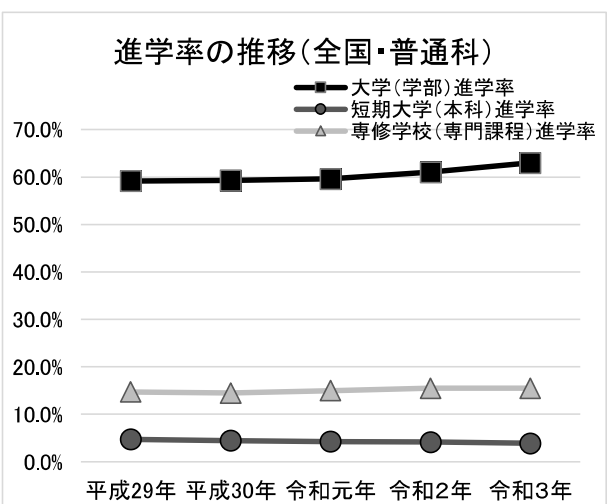
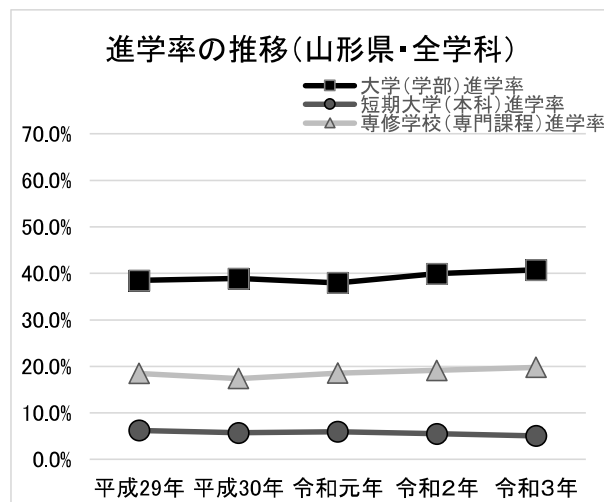
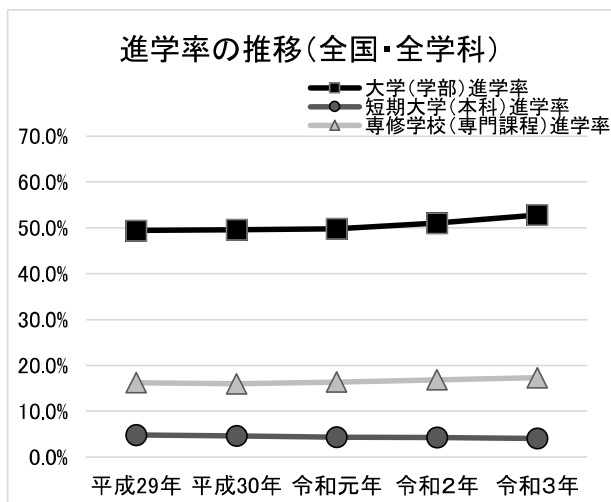
(単位:人)

学科	年	卒業生数	大学等 進学者数 (進学率)			専修学校 (専門課程) (進学率) 進学者数
			大学 (学部) (進学率)	短期大学 (本科) (進学率)		
全	平成29年	10,073	4,566 (45.3%)	3,876 (38.5%)	628 (6.2%)	1,859 (18.5%)
	平成30年	9,943	4,501 (45.3%)	3,865 (38.9%)	570 (5.7%)	1,729 (17.4%)
	令和元年	9,849	4,390 (44.6%)	3,736 (37.9%)	590 (6.0%)	1,823 (18.5%)
	令和2年	9,791	4,515 (46.1%)	3,912 (40.0%)	540 (5.5%)	1,872 (19.1%)
	令和3年	9,381	4,355 (46.4%)	3,821 (40.7%)	474 (5.1%)	1,858 (19.8%)
普通	平成29年	6,093	3,644 (59.8%)	3,227 (53.0%)	417 (6.8%)	1,111 (18.2%)
	平成30年	6,077	3,613 (59.5%)	3,215 (52.9%)	398 (6.5%)	1,057 (17.4%)
	令和元年	5,958	3,511 (58.9%)	3,104 (52.1%)	407 (6.8%)	1,090 (18.3%)
	令和2年	5,988	3,662 (61.2%)	3,299 (55.1%)	363 (6.1%)	1,137 (19.0%)
	令和3年	5,469	3,306 (60.4%)	2,972 (54.3%)	334 (6.1%)	1,117 (20.4%)
農業	平成29年	319	39 (12.2%)	16 (5.0%)	23 (7.2%)	77 (24.1%)
	平成30年	342	28 (8.2%)	16 (4.7%)	12 (3.5%)	68 (19.9%)
	令和元年	331	34 (10.3%)	23 (6.9%)	11 (3.3%)	71 (21.5%)
	令和2年	304	36 (11.8%)	17 (5.6%)	19 (6.3%)	56 (18.4%)
	令和3年	276	25 (9.1%)	10 (3.6%)	15 (5.4%)	56 (20.3%)

出典:文部科学省「学校基本調査」

大学進学率の増加(H29→R3)
 全学科 2.2ポイント
 普通科 1.3ポイント

高校卒業後の進学状況



出典:文部科学省「学校基本調査」

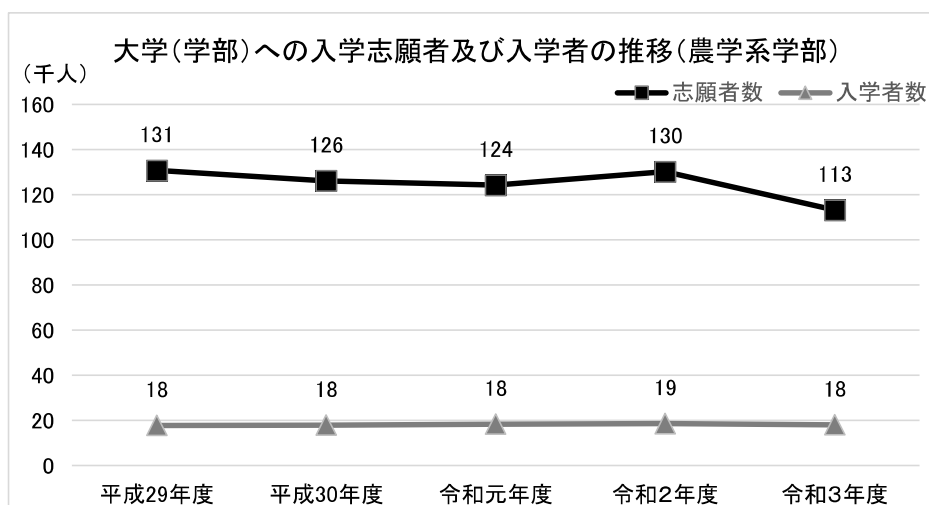
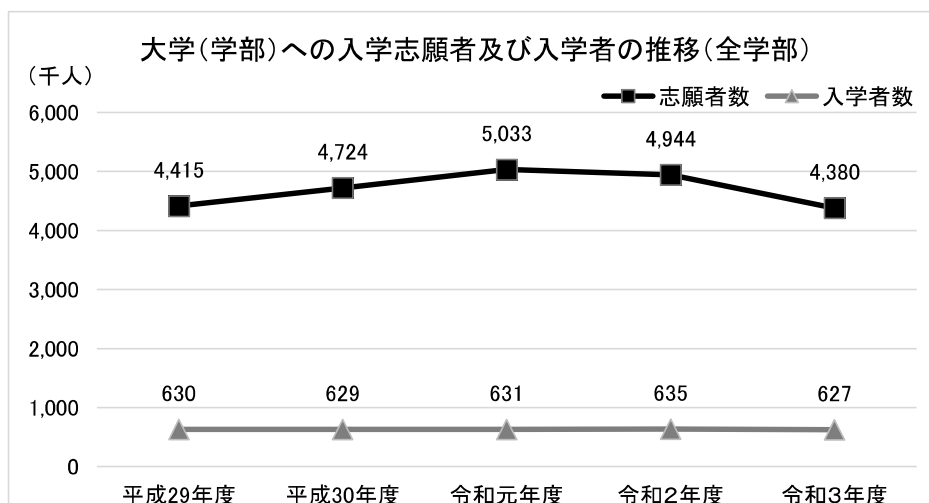
大学(学部)への入学志願者及び入学者の状況

(単位:人)

分類	区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	増加率 (R3/H29)
全学部	志願者数 (前年比)	4,414,843 (110.8%)	4,723,558 (107.0%)	5,032,682 (106.5%)	4,943,946 (98.2%)	4,380,427 (88.6%)	-0.8%
	入学者数	629,733	628,821	631,273	635,003	627,040	-0.4%

農学系 学部	志願者数 (前年比)	130,743 (101.4%)	126,157 (96.5%)	124,229 (98.5%)	130,188 (104.8%)	113,167 (86.9%)	-13.4%
	入学者数	17,798	17,857	18,362	18,599	18,000	1.1%

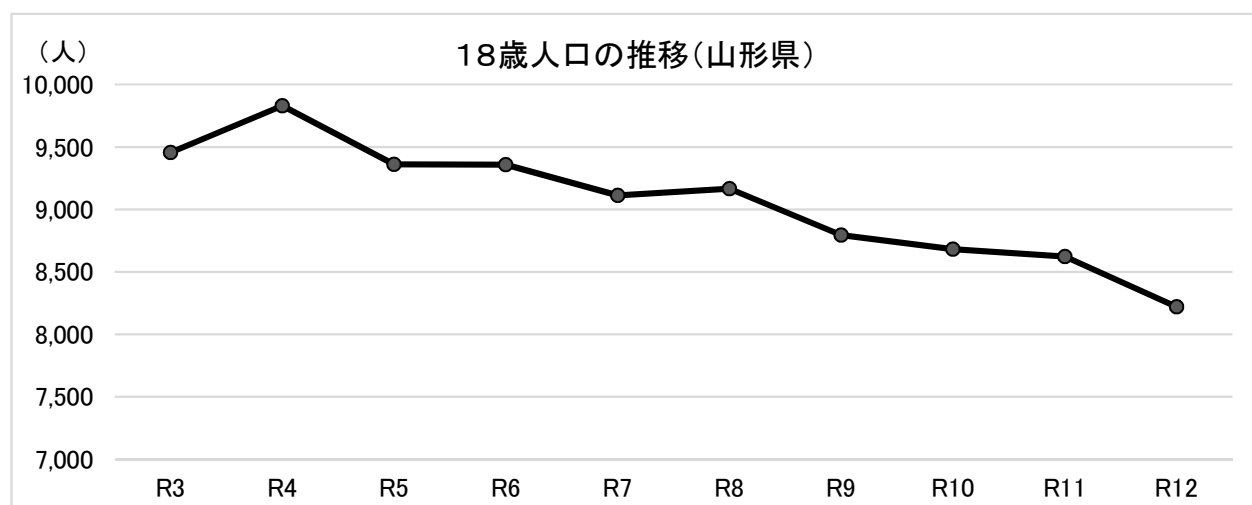
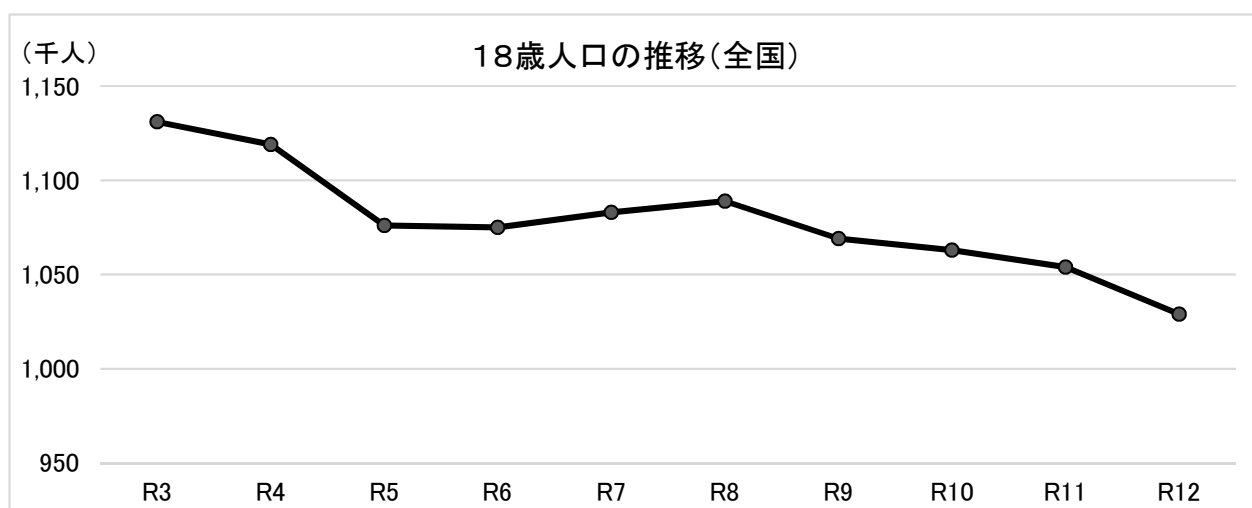
出典:文部科学省「学校基本調査」



18歳人口の推移

年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年
全国(千人)	1,131	1,119	1,076	1,075	1,083	1,089
山形県(人)	9,457	9,830	9,362	9,358	9,113	9,166
(参考) 令和3年年齢	18	17	16	15	14	13

年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年	減少率 (R12/R3)
全国(千人)	1,069	1,063	1,054	1,029	-9.0%
山形県(人)	8,795	8,682	8,623	8,220	-13.1%
(参考) 令和3年年齢	12	11	10	9	



出典:総務省統計局「人口推計」
※令和4年以降は推計値

山形県における大学進学状況

【県内大学への進学状況】

(単位:人)

年度	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度	
総数(a)	2,794		2,837		2,875		2,808		2,792	
県内流入者総数 (総数に対する比率)	1,906 (68.2%)		1,937 (68.3%)		1,946 (67.7%)		1,903 (67.8%)		1,868 (66.9%)	
1	宮城	594	宮城	551	宮城	548	宮城	567	宮城	554
2	福島	192	福島	238	福島	209	福島	183	福島	196
3	岩手	120	岩手	129	岩手	123	岩手	144	岩手	130
4	栃木	111	新潟	116	新潟	122	栃木	119	栃木	100
5	秋田	104	栃木	101	栃木	109	新潟	115	青森、秋田、新潟	90
6	新潟	101	青森	99	秋田	100	秋田	85	茨城	73
7	青森	84	秋田	99	青森	95	北海道	80	静岡	66
8	静岡	74	茨城	78	茨城	79	茨城	73	北海道、東京	58
9	茨城	70	北海道	75	北海道	76	青森	70	埼玉	48
10	東京	66	静岡	72	東京、静岡	57	東京、静岡	55	愛知	39
県内進学者数 (総数に対する比率)	888 (31.8%)		900 (31.7%)		929 (32.3%)		905 (32.2%)		924 (33.1%)	
東北6県からの進学者計 (総数に対する比率)	1,982 (70.9%)		2,016 (71.1%)		2,004 (69.7%)		1,954 (69.6%)		1,984 (71.1%)	

出典: 文部科学省「学校基本調査」

【県内高校出身者の大学進学状況】

(単位:人)

年度	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度	
総数(b)	4,240		4,224		4,099		4,275		4,097	
県外流出者総数 (総数に対する比率)	3,352 (79.1%)		3,324 (78.7%)		3,170 (77.3%)		3,370 (78.8%)		3,173 (77.4%)	
1	宮城	855	宮城	787	宮城	841	宮城	862	宮城	766
2	東京	634	東京	629	東京	543	東京	627	東京	596
3	神奈川	304	神奈川	323	新潟	308	新潟	301	新潟	336
4	新潟	292	新潟	305	神奈川	226	神奈川	275	神奈川	245
5	埼玉	203	千葉	220	千葉	210	千葉	236	千葉	220
6	千葉	197	埼玉	193	埼玉	194	埼玉	185	埼玉	166
7	福島	157	福島	129	福島	129	福島	155	福島	154
8	栃木	80	栃木	96	北海道	92	北海道	87	北海道	82
9	秋田	74	北海道	93	秋田	76	岩手	86	秋田	74
10	北海道	73	秋田	80	群馬	72	栃木	84	群馬	70
県内進学者数 (総数に対する比率)	888 (20.9%)		900 (21.3%)		929 (22.7%)		905 (21.2%)		924 (22.6%)	

出典: 文部科学省「学校基本調査」

【県内大学への進学(受入)状況と県内高校出身者の大学進学状況の差】

年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
増減数(a-b)	▲ 1,446	▲ 1,387	▲ 1,224	▲ 1,467	▲ 1,305

東北地区の国公立大学の農学系学部の定員充足状況

No.	所在地	区分	大学名	学部名	学科名	収容定員	在籍者数	充足率
1	青森	国立	弘前大学	農学生命科学部	生物学科	160	178	111.3%
					分子生命科学科	160	170	106.3%
					食料資源学科	220	227	103.2%
					国際園芸農学科	200	210	105.0%
					地域環境工学科	120	130	108.3%
2	秋田	公立	秋田県立大学	生物資源科学部	応用生物科学科	160	172	107.5%
					生物生産科学科	160	170	106.3%
					生物環境科学科	120	135	112.5%
					アグリビジネス学科	160	172	107.5%
3	岩手	国立	岩手大学	農学部	植物生命科学科	162	168	103.7%
					応用生物化学科	162	167	103.1%
					森林科学科	120	137	114.2%
					食料生産環境学科	244	258	105.7%
					動物科学科	122	124	101.6%
4	山形	国立	山形大学	農学部	食料生命環境学科	660	684	103.6%
5	宮城	国立	東北大学	農学部		600	638	106.3%
6	福島	国立	福島大学	食農学類		400	416	104.0%
計						3,930	4,156	105.8%

出典 収容定員：各大学学則（東北大学は学部通則）

在籍者数：各大学ホームページ（岩手大学のみ電話聴取）

秋田県立大学22.04現在、岩手大学23.02現在、その他22.05現在

【参考】東北地区の公立大学の農学系類似学部（食産業）の定員充足状況

No.	所在地	区分	大学名	学部名	学科名	収容定員	在籍者数	充足率
1	宮城	公立	宮城大学	食産業学類		500	540	108.0%

出典 大学ホームページ（在籍者数は22.05現在）

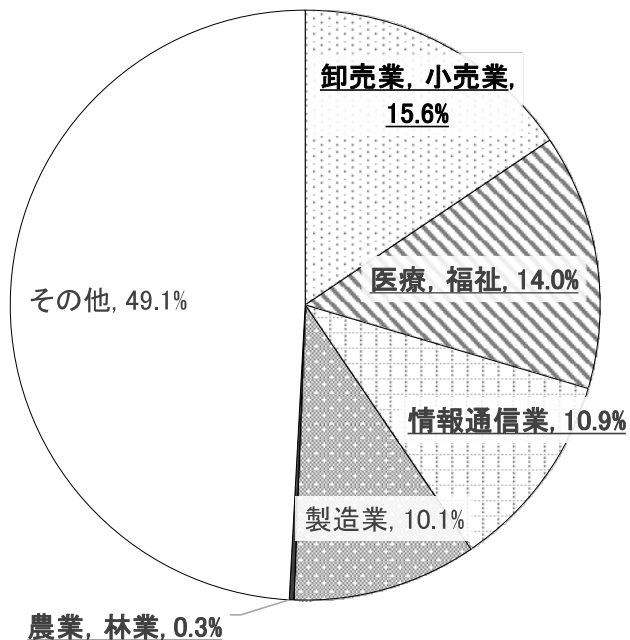
東北地区における農学系学部の設置状況

No.	所在地	区分	大学名	学部名	学科名	収容定員
1	青森	国立	弘前大学	農学生命科学部	生物学科	160
					分子生命科学科	160
					食料資源学科	220
					国際園芸農学科	200
					地域環境工学科	120
2	秋田	公立	秋田県立大学	生物資源科学部	応用生物科学科	160
					生物生産科学科	160
					生物環境科学科	120
					アグリビジネス学科	160
3	岩手	国立	岩手大学	農学部	植物生命科学科	162
					応用生物化学科	162
					森林科学科	120
					食料生産環境学科	244
					動物科学科	122
4	山形	国立	山形大学	農学部	食料生命環境学科	660
5	宮城	国立	東北大学	農学部	生物生産科学科	360
					応用生物化学科	240
6	福島	国立	福島大学	食農学類		400

出典:各大学学則(東北大学は学部通則)

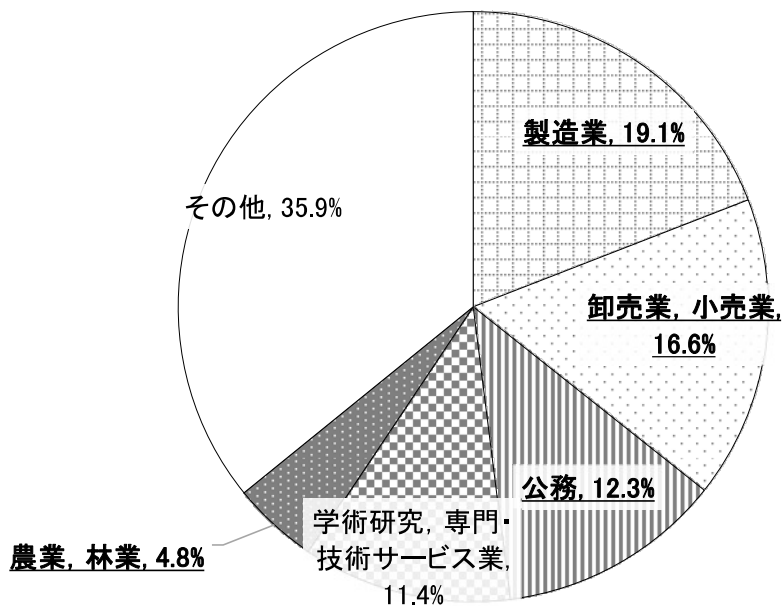
大卒者の産業別就職者数(全国)

大卒者の産業別就職状況(全学部)



大学卒業者の産業別就職状況(全学部)(n=446,082)(令和3年3月)
出典:文部科学省「学校基本調査」

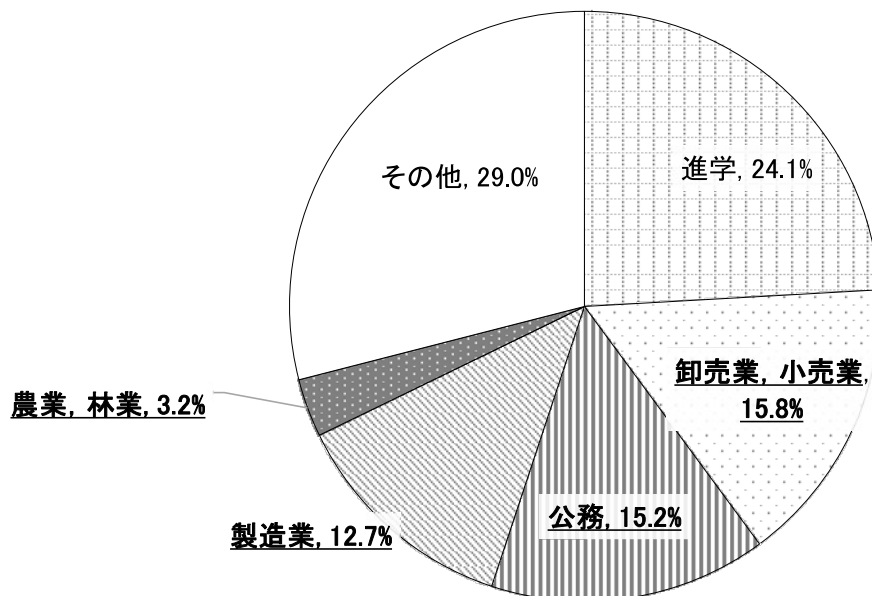
大卒者の産業別就職状況(農学部)



大学卒業者の産業別就職状況(農学部)(n=12,537)(令和3年3月)
出典:文部科学省「学校基本調査」

大卒者の産業別就職者数(山形県)

大卒者の産業別就職状況(農学部)



近隣大学卒業者の産業別就職状況(農学部)(n=158)(令和3年3月)
出典:山形大学ホームページ